

(二)(借方)甲商店買附委託品	1,401.70	(貸方)現金	1,401.70
(三)(借方)乙商店	1,344.70	(貸方)甲商店買附委託品	1,301.70
		手数料	28.-
		現金	15.-
(四)(借方)現金	1,344.70	(貸方)乙商店	1,344.70

販賣委託品又ハ買附委託品ノ取引記帳状態ヲ明カナラシメンガ爲メ別ニ販賣委託品明細帳又ハ買附委託品明細帳ナル補助帳ヲ設ケ各委託品毎ニ其計算ノ明細ヲ記入スルモ亦便利ナリトス。

第三節 荷爲替

荷爲替トハ、手形割引ノ一種ニシテ、互ニ地ヲ隔ツル商人間ノ取引ニ於テ、荷出主ガ商品ヲ積送ルト同時ニ其代金ニ對スル爲替手形ヲ荷受主宛ニ作成シ其商品ヲ擔保トシテ手形ノ割引ヲ銀行ニ依頼シ現金ヲ受取ルヲ云フナリ。

此ノ方法ニ依ルトキハ、荷出主ハ商品ヲ積送ルト同時ニ其代金ヲ受取ルコトヲ得テ、資金ノ融通上、大ナル便利ヲ得ラルルナリ。

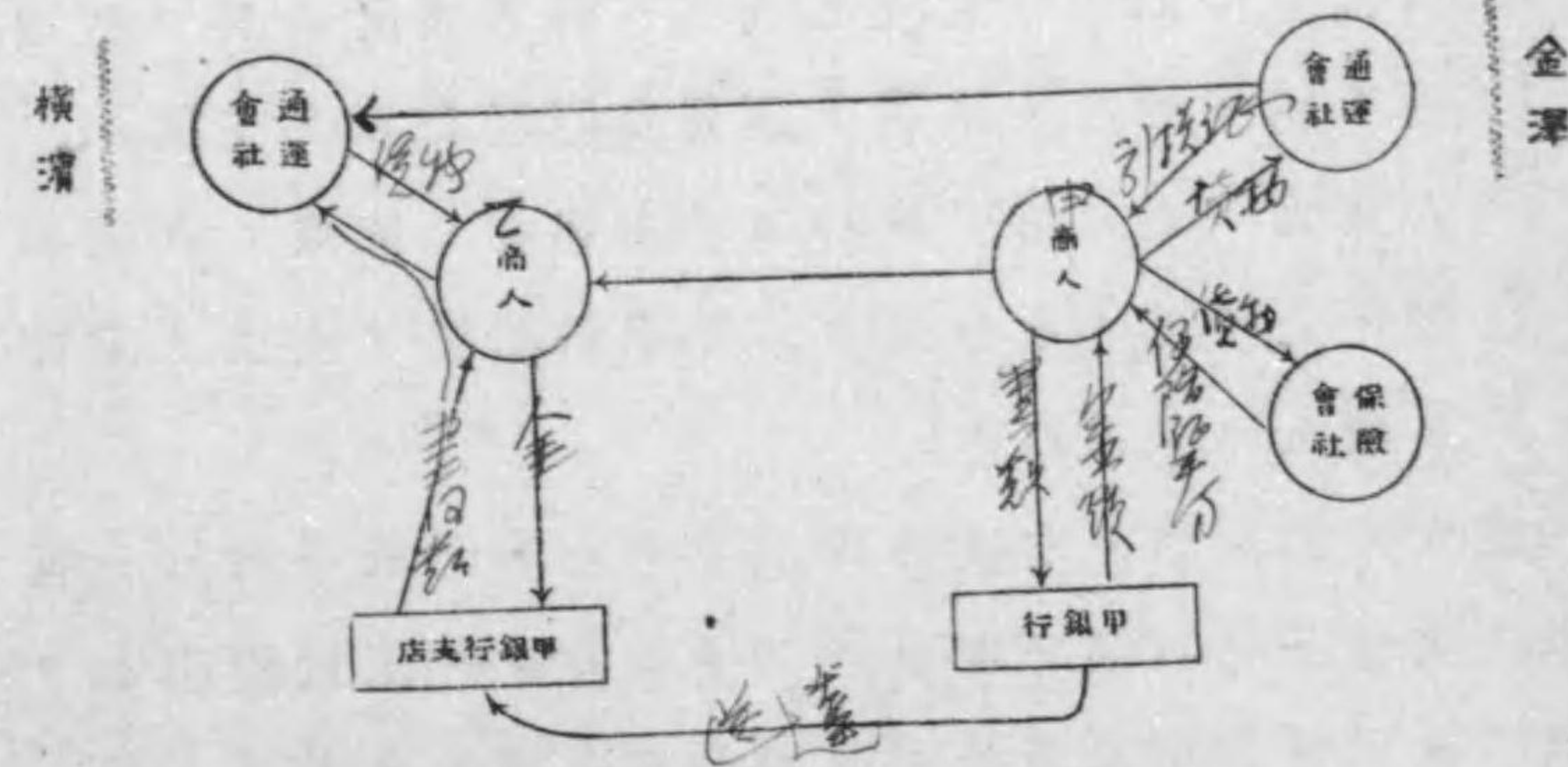
荷爲替ノ取組ヲ爲スニハ、荷主ハ商品ヲ積送ルト同時ニ荷受主宛ニ荷爲替ヲ依頼セントスル銀行ヲ受取人トシタル爲替手形ヲ作成シ貨物引換證(又ハ船荷證券)送狀及ビ保險證券等ヲ添付シテ之ヲ銀行ニ交付シ以テ荷爲

替ノ取組ヲ依頼スルナリ、然ルトキハ銀行ハ其商品原價ノ七掛又ハ八掛ヲ手形面金額トナサシメ満期日迄ノ利息及ビ手数料等ヲ其手形面金額ヨリ差引キ其殘額ヲ支拂フベシ斯クテ銀行ハ該手形及ビ諸書類ヲ貨物仕向地ノ支店又ハ取引銀行ニ送付シ、荷受主ヨリ手形面金額ヲ取立テシメ、又荷受主ハ該金額ヲ銀行ニ支拂フト同時ニ、諸書類ヲ受ケテ運送店ニツキ貨物引換證ヲ渡シテ、貨物ヲ引取ルナリ。

今荷爲替ノ行ハルル有様ヲ圖解セバ次ノ如シ。

横濱

金澤



次ニ荷爲替ニ關スル取引記帳例ヲ示サム。

(一)大阪乙商店ハ横濱甲商店ノ注文ニ依リ、代價五百圓ノ商品ヲ積送リ同時ニ第一銀行ニテ荷爲替ヲ取組ミ、商品原價ノ八掛即チ金四百圓ノ内ヨリ割引料拾圓ヲ引去リ、殘額ハ現金ニテ受取ル。

(二)横濱甲商店ハ右貨物到着ト共ニ當地第一銀行ヘ手形面金額金四百圓ヲ現金ニテ支拂フ。

出荷主大阪乙商店ノ記帳

(一)(借方)甲商店	100.—	(貸方)商品	500.—
現金	390.—		
割引料	10.—		

荷受主横濱甲商店ノ記帳

(二)(借方)商品	500.—	(貸方)現金	400.—
		乙商店	100.—

(三)名古屋甲商店ハ大阪乙商店ヘ販賣委託ノ爲メ代價壹千圓ノ商品ヲ積送り運賃參圓現金ニテ支拂フ。右貨物ニ對シ第一銀行ニテ荷爲替ヲ依頼シ商品原價ノ七掛即チ七百圓ヨリ割引料拾圓ヲ引去リ殘額ハ現金ニテ受取ル。

(四)大阪乙商店ハ右貨物到着シタルニ付第一銀行ヘ荷爲替金七百圓ヲ現金ニテ支拂ヒタル上貨物引取ヲ爲シ別ニ引取費金五圓現金ニ立替拂ヲナス。

荷出主名古屋甲商店ノ記帳

(借方)現金	690.—	(貸方)商品	1,000.—
乙商店向積送品	309.—		
割引料	10.—		

荷受主大阪乙商店ノ記帳

(借方)甲商店販賣委託品 705.— (貸方)現金 705.—

販賣委託品明細帳

(借方)			(貸方)		
日附	摘要	金額	日附	摘要	金額

買附委託品明細帳

(借方)			(貸方)		
日附	摘要	金額	日附	摘要	金額

次ノ假設取引ヲ仕譯セヨ。

一、仙臺岩本商店ヘ販賣委託ノ爲メ代價貳千圓ノ商品ヲ汽車便ニテ積送ル、但積送費貳拾圓現金ニテ支拂フ。

二、静岡石井商店ヨリ販賣委託ノ爲メ綠茶五拾箱壹箱四拾圓替ニテ積送シ來ル、但右貨物ニ對シ荷爲替取組アリタルニ依リ、當地商業銀行ヨリ石井商店振出當店宛ノ荷爲替手形金壹千八百圓支拂引受ノ爲

メ呈示アリタルニ付之レガ引受ヲナス。

- 三、右貨物引取ノ爲メ、費用金拾五圓現金ニテ支拂フ。
- 四、仙臺岩本商店向積送品賣捌濟ノ由ニテ、岩本商店ヨリ賣上勘定書ト共ニ當店手取金貳千百五拾圓第一銀行宛送金手形ニテ受取ル。
- 五、青森金山商店ヨリ綠茶五十箱買入ノ委託ヲ受ケ、手附金五百圓第一銀行仕拂保證小切手ニテ受入ル。
- 六、名古屋竹内商店ヨリ砂糖百俵買入ノ注文ヲ受ク。
- 七、青森金山商店へ同店買附委託品綠茶五拾箱(静岡石井商店ノ販賣委託品)壹個四拾貳圓替ニテ本日右買附計算書ト共ニ積送ル、但シ積送費貳拾圓(先方ノ負擔)ハ當店コレヲ現金ニテ立替ヲナセリ。
右貨物買附計算書ノ要領ハ商品價格貳千百圓買入手數料貳拾壹圓、立替運送費貳拾圓計貳千百四拾壹圓ナリ。
- 八、大阪安宅商會へ注文シ置キタル商品(代價五千圓)本日汽車便ニテ積送シタル旨通知ヲ受ク、但シ右貨物ニ對シ荷爲替取組アリタルニヨリ當地東洋銀行ヨリ安宅商會振出當店宛ノ荷爲替手形呈示アリタルニツキ代金四千圓現金ニテ支拂フ。
- 九、横濱梶谷商店へ販賣委託ノ爲メ代價參千圓ノ商品ヲ積送ス、但其貨物ニ對シ第一銀行ニテ荷爲替ヲ取組ミ右代價八掛ノ内ヨリ割引料參圓ヲ引去リ殘

額ハ同銀行へ當座預ケトナス。

- 一〇、青森金山商店ヨリ買附委託品ノ殘金壹千六百四拾壹圓第一銀行宛仕拂保證小切手ニテ受入ル。

記帳練習

例題第五

主簿	{	仕譯日記帳
		元帳
補助簿	{	金錢出納帳
		積送品元帳
		委託品元帳

大正四年十二月

- 一日 早川藤太郎、中山觀三、岩下專太郎ノ三名委託販賣業ノ目的ニテ、早山合資會社ヲ組織シ本日ヨリ開業ス各社員ノ出資額次ノ如シ。

一、早川藤太郎出資	現金	金參千圓
一、中山觀三出資	現金	金貳千圓
一、岩下專太郎出資	現金	金貳千圓
- 二日 金庫其他店用什器ヲ買入レ現金ニテ代價金貳百圓ヲ支拂フ。
- 同日 次ノ通り現金ニテ諸拂ヲナス。

一、帳簿、郵便切手其他消耗品	金五圓
一、開業準備諸入費	金貳拾圓
- 五日 第一銀行ト當座取引ヲ開始シ現金參千五百圓ヲ預ケ入ル。

七日 横濱丸木商店ヨリ第一委託販賣品トシテ次ノ通り受入ル。

一米國綿花 參拾捆 壹捆 金壹百貳拾八圓替
右向拂運賃金拾八圓現金ニテ支拂フ。

十日 村岡商店ヨリ次ノ商品ヲ買入レ、代金ノ内金壹千圓ハ掛ケトシ殘額ハ第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

一支那綿花 貳拾捆 壹捆 金九拾六圓替
此金壹千九百貳拾圓

同日 横濱梅田商會ヨリ同店損益引受ニテ次ノ通り受取ル。

一孟買綿花 貳拾捆 壹捆 金七拾五圓替
此金壹千五百圓

右貨物ニ對シ荷爲替取組アリタルニツキ、當地商業銀行ヨリノ請求ニ應ジ、荷爲替手形金壹千貳百圓、第一銀行宛小切手ニテ支拂フ、但シ持込費金九圓ハ別ニ現金ニテ立替支拂フ。

十二日 大阪安田商店へ委託販賣ノ爲メ、次ノ通り同店へ積送ス、但積送費金參拾圓現金ニテ支拂フ。

一支那綿花 貳拾捆 壹捆 金九拾六圓替
此金壹千九百貳拾圓

十五日 鐘淵紡績會社へ次ノ通り賣渡ス。

一米國綿花 拾五捆 (丸木商店第一委託品) 壹捆
金壹百四拾貳圓替 此金貳千百參拾圓

一、孟買綿花 五捆 (梅田商店第一委託品) 一捆
金八拾四圓替 此金四百貳拾圓

右代金ノ内金貳千圓ニ對シテハ下平商店振出同會社宛本月十三日付本月二十五日拂ノ約束手形ヲ裏書ノ上受取り殘額ニ對シテハ、同會社振出第三銀行宛小切手受取ル。

同日 仙臺早瀬商店ヨリ米國綿花拾五捆買附ノ依頼ヲ受ケ手附トシテ金壹千圓三井銀行宛送金手形ニテ受取ル。

十六日 第一銀行へ次ノ通り當座預ケヲナス。

一、第三銀行宛小切手 金五百五拾圓
一、三井銀行宛送金手形 金壹千圓

同日 仙臺早瀬商店へ同店買附委託品米國綿花拾五捆(丸木商店第一委託品)汽車積ニテ積送ス、但早瀬商店負擔ノ積送諸入費金貳拾貳圓五拾錢現金ニテ立替ヲナス、其仕切狀要領次ノ如シ。

一、米國綿花 拾五捆 壹捆 金壹百四拾貳圓替
此代價金貳千壹百參拾圓

内當店立替

一、積込諸入費	金貳拾貳圓五拾錢
一、手数料	金四拾貳圓六拾錢
小計	金六拾五圓拾錢
合計	金貳千壹百九拾五圓拾錢

内去十五日受取高 金壹千圓

差引早瀬商店へ貸 金壹千壹百九拾圓拾錢

十七日 横濱丸木商店へ同店第一販賣委託品賣上計算書ヲ郵送ス、但シ同店手取金ハ追テ送金ノコトトス。

一、賣上總高 金四千貳百六拾圓

内立替拂

一、向拂運賃 金拾八圓

一、倉敷料及保險料 金參拾圓

一、賣上手數料 金八拾五圓貳拾錢

小計 金壹百參拾參圓貳拾錢

差引丸木商店手取金 金四千壹百貳拾六圓八拾錢

同日 今井商店ヨリ村岡商店振出、當店宛本月十六日付一覽後五日拂ノ爲替手形(金壹千圓)呈示アリタルニツキ支拂保證ヲナス、但村岡商店ヨリ同額ノ負債アルニヨル。

二十日 去十二日大阪安田商店向第一積送品賣上濟ニテ賣上勘定書ヲ同店ヨリ受取ル、但シ當店手取金壹千八百七拾五圓ハ追テ送金トノコト。

同日 仙臺早瀬商店ヨリ同店買附商品代殘額金壹千壹百九拾五圓拾錢三井銀行宛送金手形ニテ受取リ右手形ハ直ニ第一銀行ニ當座預ケトナス。

二十二日 去十七日今井商店へ支拂引受ノ手形本日期日ニ付第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

二十三日 名古屋紡績會社ヨリ買附ノ委託ヲ受ケ村岡商店ヨリ直ニ次ノ通り買入ル。

一、内國綿花 貳拾捆 壹捆 金七拾圓五拾錢替
此代金壹千四百拾圓

右代金トシテ次ノ通り村岡商店へ支拂フ。

一、同店宛本日付來月五日拂約束手形 金八百圓

一、當店振出第一銀行宛小切手 金六百圓

一、現金 金拾圓

同日 右貨物ヲ汽車便ニテ名古屋紡績會社ニ積送ス、但右貨物ニ對シテハ第一銀行ニテ荷爲替ヲ取組ミ商品代價ノ八掛金壹千壹百貳拾八圓ノ内ヨリ利息金五圓ヲ引去リ殘額ハ同銀行へ當座預ケトス、其仕切狀要領次ノ如シ。

一、商品買入代價 金壹千四百拾圓

外ニ

一、買入手數料 金貳拾八圓貳拾錢

合計 金壹千四百參拾八圓貳拾錢

内本日荷爲替取組高 金壹千壹百貳拾八圓

差引同會社へ貸 金參百拾圓貳拾錢

同日 大阪安田商店ヨリ同店向第一積送品當店手取金壹千八百七拾五圓第一銀行宛送金手形ニテ受取リ右手形ハ直ニ同行へ當座預ケトス。

二十四日 横濱丸木商店へ同店第一委託品手取金四千

壹百貳拾六圓八拾錢第一銀行宛小切手ニテ郵送ス。

二十五日 去十五日鐘淵紡績會社ヨリ受取ノ約束手形
本日期日ニツキ支拂人下平商店ヨリ次ノ通り受取ル。

一、同店振出商業銀行宛小切手 金壹千八百圓
一、現金 金貳百圓

同日 次ノ通り村岡商店ヨリ掛ニテ買入レ直ニ京都
水島商店へ委託販賣ノ爲メ積送ス、但積送費金參拾圓
現金ニテ支拂フ。

一、内國綿花 拾捆 壹捆 金六拾九圓替 金六百
九拾圓
一、支那綿花 拾捆 壹捆 金九拾六圓替 金九百
六拾圓

同日 上記ノ商品ニ對シ第一銀行ニテ荷爲替ヲ取組
ミ商品代價八掛金壹千參百貳拾圓ノ内ヨリ利息金六
圓ヲ差引キ殘額ハ當座預ケトス。

同日 横濱丸木商店ヨリ第二販賣委託品次ノ通り受
取ル。

一、米國綿花 拾五捆 壹捆 金壹百貳拾八圓替
右車力賃金九圓第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

同日 梅田商會ヨリ第二販賣委託品次ノ通り受取り
車力賃金六圓七拾錢現金ニテ拂フ。

一、孟買綿花 拾五捆 壹捆 金七拾五圓替

二十六日 日本織物會社へ次ノ通り梅田商會第一委託

品賣渡ス。

一、孟買綿花 拾五捆 壹捆 金八拾參圓四拾錢替
此代金壹千貳百五拾壹圓

右代金ノ支拂トシテ次ノ通り受取ル。

一、同會社振出第一銀行宛小切手 金六百圓
一、現金 金六百五拾壹圓

同日 梅田商會へ同商會第一販賣委託品賣上濟ニツ
キ賣上精算書ヲ送り同店手取金ハ當店ニ預ル。

一、賣上總高 金壹千六百七拾壹圓

内當店立替拂

一、車力賃 金九圓
一、倉敷料及保險料 金貳拾壹圓
一、賣上手數料 金參拾參圓四拾貳錢
一、去十日荷爲替取組高 金壹千貳百圓
合計 金壹千貳百六拾參圓四拾貳錢

差引同店手取金 金四百七圓五拾八錢

同日 次ノ通り第一銀行へ當座預ケトナス。

一、下平商店振出商業銀行宛小切手 金壹千八百圓
一、日本織物會社振出第一銀行宛小切手 金六百圓

廿八日 京都水島商店ヨリ同店向積送品ノ一部賣上ノ
由ニテ次ノ通知ヲ受ク。

一、内國綿花 拾捆 壹捆 金七拾八圓替
此代價金七百八拾圓

三十一日 次ノ通り第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

一、借家料	金五百圓
一、店員給料及旅費	金五百七拾圓
一、廣告料其他通信費	金壹百七拾圓
一、電燈料其他薪炭費	金壹百六拾圓
一、倉敷料及保險料	金壹百八拾圓

同日 本日繰越決算ヲナス棚卸次ノ通り。

一、京都水島商店向積送品	原價ノ儘
一、營業用什器時價見積高	金壹百八拾圓
一、第一銀行ヨリ受取ルベキ利息	金拾八圓七拾錢

残高試算表

大正四年十二月三十一日

勘定科目	借方		貸方	
	金額	金額	金額	金額
1 資 本			7,000	00
2 現 金	3,999	80		
3 營 業 用 什 器	200	00		
4 創 業 入 費	20	00		
5 營 業 費	900	00		
6 當 座 預 金	3,521	30		
7 丸木商店第二委託販賣品	9	00		
8 支 拂 手 形			800	00
9 名 古 屋 紡 績 會 社	310	20		
10 村 岡 商 店			1,650	00
11 梅 田 商 店			407	58
12 水 島 商 店 向 積 送 品	900	00		
13 水 島 商 店			540	00
14 利 息	11	00		
15 手 數 料			189	42
16 雜 費	500	00		
17 梅田商店第二委託販賣品	6	70		
18 安田商店向積送品	75	00		
19 借 家 料	500	00		
20 倉 敷 料 及 保 險 料	129	00		
合 計	10,587	00	10,587	00

第七章 組合商品ニ關スル取引

二人以上ノ商人ガ損益分擔ノ約束ニテ一時組合ヲ結ビ商品ノ販賣ニ從事スルコトアリ、斯カル場合ノ商品ヲ組合商品ト稱ス、而シテ其商品ハ各組合員ヨリ出スコトアリ、或ハ一組合員ヨリ出スコトアリ、又其損益分擔法モ各自平等ナルコトアリ、或ハ特ニ其割合ヲ定ムルコトアリ。

斯カル場合ニ於テ各組合員各自ノ計算ヲ明カナラシメンガ爲メ、設クル科目ヲ組合商品勘定ト稱ス、而シテ荷出組合員ハ何商店向組合積送品勘定トシ、販賣ニ從事スル組合員ハ之ヲ何商店組合販賣品勘定トシテ區別シ處理スルヲ常トス。

販賣ニ從事スル組合員ハ組合商品ノ販賣ヲ了ラバ荷出組合員及ビ其他ノ組合員ニ仕切狀ヲ郵送シテ其結果ヲ報告セザルベカラス。

組合商品ノ仕譯記帳法ニ分擔式、全擔式及ビ代理式ノ三式アリテ各其方法ヲ異ニスト雖モ計算ノ結果ニ於テハ同一ナリトス、以上三式ノ内分擔式方法ハ、最モ合理的ニシテ、間然スル所ナシト雖モ記帳上多少複雑ノ點アリ、之ニ反シ全擔式及ビ代理式ノ二法ハ實際ノ記帳容易ナリト雖モ合理上ニ於テ多少缺點ナキニアラズ今次ニ各方法ニ就テ説明スベシ。

一、分擔式仕譯法 組合員各自ガ其損益ヲ分擔スル割合ニ應ジ組合商品ノ一部ニ對スル責任ヲ負擔スルモノトシテ仕譯記帳スル法ナリ。

積送組合員ハ自己ノ責任額ダケ、其組合商品ニ對スル權利ヲ取得スルト同時ニ、組合商品ノ原價及ビ積送ノ際支拂タル諸費用等ノ合計金ヨリ、自己ノ責任額ヲ差引キタル殘額ヲ荷受組合員及ビ其他ノ組合員ノ負擔トシテ恰モ商品ヲ掛賣シタル場合ノ如ク記帳スルナリ。

荷受組合員(販賣ニ從事スル組合員)及ビ他ノ組合員ハ各自ノ責任額ダケ組合商品ニ對スル權利ヲ得ルト同時ニ積送組合品ニ對シ其レ丈ケ義務ヲ生ジタルモノトシテ仕譯記帳スルナリ。

而シテ荷受組合員ガ受取りタル組合商品ニ對シ諸掛ノ立替拂ヲ爲シタルトキ及ビ組合商品ヲ販賣シタル場合、又賣上勘定書ヲ發送シ、損益分擔額ヲ送付或ハ入手シタルトキハ委託販賣ノ場合ニ於ケルモノト異ナル所ナシ。

今次ニ取引ヲ設ケテ組合商品ノ仕譯法ヲ示サム。

例一 甲乙兩名組合ノ場合。

大阪甲商店(荷出組合員)ノ記帳

一、大阪甲商店及ビ名古屋乙商店兩名ノ組合ニテ損益平分ノ約束ニ依リ代金壹千圓ノ商品ヲ賣捌ノ爲メ、

1000
甲商店ハ乙商店へ向ケ積送ス右貨物積込費拾圓ハ現金ニテ支拂フ。

(借方)乙商店向積送組合品	505.—	(貸方)商品	1,000.—
乙商店	505.—	現金	10.—

二、名古屋乙商店ヨリ同店向組合商品賣上濟ノ由ニテ、賣上勘定書ヲ受取ル、各自ノ利益金ハ百貳拾八圓五拾錢ニシテ手取金ハ、追テ送金アル筈ナリ。

(借方)乙商店	633. ⁵⁰	(貸方)乙商店向積送組合品	633. ⁵⁰
---------	--------------------	---------------	--------------------

又ハ

(借方)乙商店	633. ⁵⁰	(貸方)乙商店向積送組合品	505.—
		損益	128. ⁵⁰

三、名古屋乙商店ヨリ、組合商品賣上金及ビ利益高合計金壹千百參拾八圓五拾錢現金ニテ受取ル。

(借方)現金	1,138. ⁵⁰	(貸方)乙商店	1,138. ⁵⁰
--------	----------------------	---------	----------------------

名古屋乙商店(荷受組合員)ノ記帳

一、大阪甲商店ヨリ、次ノ通り組合販賣品ヲ受入ル、同時ニ向拂運賃貳拾圓現金ニテ支拂フ。

一、何々商品 代價 壹千圓

外ニ

諸掛(甲商店支拂ヒノ分) 拾圓

計金壹千拾圓也

(借方)甲商店販賣組合品	525.—	(貸方)甲商店	505.—
		現金	20.—

二、右販賣組合品全部ヲ金壹千參百圓ニテ丙商店へ現金ニテ賣渡ス。

(借方)現金	1,300.—	(貸方)甲商店販賣組合品	1,300.—
--------	---------	--------------	---------

三、組合販賣品賣上計算書ヲ作成シ、甲商店へ郵送ス、甲商店手取金壹千百參拾八圓五拾錢ハ追テ送金ノコトトセリ。

賣上勘定書

一、賣上總高 金壹千參百圓也

内

向拂運賃	金貳拾圓也
賣上手數料	金拾參圓也
商品原價及積込費	金壹千拾圓也
小計	金壹千四拾參圓也
差引純利益高	金貳百五拾七圓也
各自利益高	金百貳拾八圓五拾錢也

依テ甲商店手取金

商品原價及積込諸費	金壹千拾圓也
甲商店利益高	金百貳拾八圓五拾錢也
計	金壹千百參拾八圓五拾錢也

(借方)甲商店販賣組合品	775.—	(貸方)甲商店	633. ⁵⁰
		手數料	13.—
		損益	128. ⁵⁰

四、甲商店へ組合商品賣上同店手取金壹千百參拾八圓

五拾錢現金ニテ送付ス。

(借方)甲商店 1,138.⁵⁰ (貸方)現金 1,138.⁵⁰

例二、甲乙丙三人組合ノ場合

東京甲商店(荷出組合員)ノ記帳

一、東京甲商店、名古屋乙商店、及ビ大阪丙商店三名組合ヲ結ビ損益ハ三等分ノ約ニテ甲商店ヨリ賣捌ノ爲メ乙商店へ代價五千四百圓ノ商品ヲ積送シ、其旨丙商店へモ通知ス。

右商品積込諸入費金參拾圓現金ニテ支拂フ。

(借方)乙商店向積送組合品 1,810.— (貸方)商品 5,400.—
 乙商店 1,810.— 現金 30.—
 丙商店 1,810.—

二、乙商店ヨリ組合商品賣上濟ニテ賣上計算書ヲ受入ル、但シ當店手取金五千五百拾四圓ニシテ各自ノ利益金ハ八拾四圓ナリト云フ。

(借方)乙商店 3,704.— (貸方)乙商店向積送組合品 1,810.—
 丙商店 1,810.—
 損益 84.—

三、乙商店ヨリ組合商品賣上手取金五千五百拾四圓本日現金ニテ受入ル。

(借方)現金 5,514.— (貸方)乙商店 5,514.—

名古屋乙商店(荷受組合員)ノ記帳

一、東京甲商店ヨリ次ノ通り組合販賣品ヲ受取リ同時

ニ向拂運賃五拾圓現金ニテ支拂フ。

一、何々商品 5,400.—

外ニ

積込諸入費(甲商店支拂ノ分) 30.—

計 5,430.—

(借方)甲商店販賣組合品 1,860.— (貸方)甲商店 1,810.—
 現金 50.—

二、上記組合商品ヲ丁商店へ五千八百圓ニテ賣渡シ現金受取ル。

(借方)現金 5,800.— (貸方)甲商店販賣組合品 5,800.— ㊟

三、上記組合商品賣上計算書ヲ作成シ甲商店及ビ丙商店へ送付ス。

賣上計算書

一、賣上總高 5,800.—

諸拂

向拂運賃 50.—

廣告料及倉敷料 15.—

賣上手數料 58.—

商品原價及甲商店立替積込費 5,430.—

計 5,548.—

差引利益高 252.—

各自利益高 84.—

依テ

甲商店手取金		5,514.—
丙商店手取金		84.—
(借方)甲商店販賣組合品	3,940.—	(貸方)甲商店
		3,704.—
		丙商店
		84.—
		損益
		84.—
		手數料
		58.—
		雜費
		10.—

四、組合商品手取金次ノ通り現金ニテ送付ス。

甲商店へ		5,514.—
丙商店へ		84.—
(借方)甲商店	5,514.—	(貸方)現金
		5,598.—
		丙商店
		84.—

大阪丙商店(他ノ組合員)ノ記帳

一、東京甲商店ヨリ組合商品販賣ノ爲メ名古屋乙商店へ積送シタル旨通知ヲ受ク。

(借方)甲商店販賣組合品	1,810.—	(貸方)甲商店	1,810.—
--------------	---------	---------	---------

二、名古屋乙商店ヨリ組合商品賣上濟ノ由ニテ、賣上計算書ヲ受取ル、但各自利益高八拾四圓ナリ。

(借方)甲商店	1,810.—	(貸方)甲商店販賣組合品	1,810.—
		乙商店	84.—
		損益	84.—

三、組合商品賣上利益金八拾四圓乙商店ヨリ現金ニテ受入ル。

(借方)現金	84.—	(貸方)乙商店	84.—
--------	------	---------	------

例三 損益分擔額ヲ異ニスル場合。

前ノ(例二)ノ甲乙丙三名組合ノ場合ニ於ケル取引ニ於テ若シ甲商店ハ五分乙商店ハ三分丙商店ハ二分ヲ負擔スベキ契約ナルトキハ其仕譯次ノ如シ。

但シ此場合ニ於テ總利益高 ¥252 ノ内甲商店ハ ¥126 乙商店ハ ¥75.60 丙商店ハ ¥50.40 受クルコトニテ、甲商店ノ總手取金ハ ¥5,556. ナルコトヲ知ルベシ。

東京甲商店ノ記帳

一、(借方)乙商店向積送組合品	2,715.—	(貸方)商品	5,430.—
		乙商店	1,629.—
		丙商店	1,086.—
二、(借方)乙商店	3,927.—	(貸方)乙商店向積送組合品	2,715.—
		丙商店	1,086.—
		損益	126.—
三、(借方)現金	5,556.—	(貸方)乙商店	5,556.—

名古屋乙商店ノ記帳

一、(借方)甲商店販賣組合品	1,679.—	(貸方)甲商店	1,629.—
		現金	50.—
二、(借方)現金	5,800.—	(貸方)甲商店販賣組合品	5,800.—
三、(借方)甲商店販賣組合品	4,121.—	(貸方)甲商店	3,927.—
		丙商店	50.—
		手數料	58.—

		損益	75. ⁰⁰
		雜費	10.—
四、(借方)甲商店	5,556.—	(貸方)現金	5,506. ⁴⁰
丙商店	50. ⁴⁰		

大阪丙商店ノ記帳

一、(借方)甲商店販賣組合品	1,086.—	(貸方)甲商店	1,086.—
二、(借方)甲商店	1,086.—	(貸方)甲商店販賣組合品	1,086.—
乙商店	50. ⁴⁰	損益	50. ⁴⁰
三、(借方)現金	50. ⁴⁰	(貸方)乙商店	50. ⁴⁰

二、全擔式仕譯法 此方法ハ積送組合員ハ荷受組合員、即チ販賣組合員ニ對シ恰モ該組合商品ヲ掛賣シタル如ク仕譯記帳シ、荷受組合員モ亦其組合商品ヲ掛買シタル如ク、全責任ヲ負フモノトシテ仕譯記帳スル法ナリ、而シテ其他ノ組合員ハ販賣組合員ヨリ賣上計算書ヲ入手シタルトキ初メテ自己ノ損益分擔額ニツキテノミ、整理記帳スルモノナリ。

次ニ前ノ(例一)ノ取引ヲ以テ其仕譯ヲ示サム。

積送組合員(大阪甲商店)ノ記帳

一、(借方)乙商店	1,010.—	(貸方)商品	1,000.—
		現金	10.—
二、(借方)乙商店	128. ⁵⁰	(貸方)損益	128. ⁵⁰
三、(借方)現金	1,138. ⁵⁰	(貸方)乙商店	1,138. ⁵⁰

荷受組合員(名古屋乙商店)ノ記帳

一、(借方)甲商店販賣組合品	1,030.—	(貸方)甲商店	1,010.—
		現金	20.—
二、(借方)現金	1,300.—	(貸方)甲商店販賣組合品	1,300.—
三、(借方)甲商店販賣組合品	270.—	(貸方)甲商店	128. ⁵⁰
		損益	128. ⁵⁰
		手數料	13.—
四、(借方)甲商店	1,138. ⁵⁰	(貸方)現金	1,138. ⁵⁰

三、代理式仕譯法 此仕譯法ハ委託販賣品取引ト同一ナル取扱ヲナス方法ニシテ、積送組合員ハ恰モ販賣委託ノ爲メ商品ヲ積送シタルガ如ク記帳シ、荷受組合員モ亦委託販賣品ヲ受入レタル如ク記帳スルニアリ、而シテ他ノ組合員ハ全擔式ノ場合ト同一ナル仕譯ヲ爲スモノナリ。

次ニ前ノ(例一)ノ取引ニツキ其仕譯ヲ示サム。

大阪商店(積送組合員)ノ記帳

一、(借方)乙商店向積送組合品	1,010.—	(貸方)商品	1,000.—
		現金	10.—
二、(借方)乙商店	1,138. ⁵⁰	(貸方)乙商店向積送組合品	1,010.—
		損益	128. ⁵⁰
三、(借方)現金	1,138. ⁵⁰	(貸方)乙商店	1,138. ⁵⁰

名古屋乙商店(荷受組合員)ノ記帳

一、(借方)甲商店販賣組合品	20.—	(貸方)現金	20.—
二、(借方)現金	1,300.—	(貸方)甲商店販賣組合品	1,300.—

三、(借方)甲商店販賣組合品	1,280.—	(貸方)甲商店	1,138. <u>50</u>
		損益	128. <u>50</u>
		手数料	13.—
四、(借方)甲商店	1,138. <u>50</u>	(貸方)現金	1,138. <u>50</u>

ノ設取引ニ基キ甲、乙及丙ノ三人ニ於ケル各仕譯ヲナセ、但シ全擔式、代理式、分擔式ノ三様ニ仕譯スベシ。

一、東京甲商店、大阪乙商店及ビ神戸丙商店三名組合ヲ結ビ、甲商店ハ五分、乙商店ハ三分、丙商店ハ二分ノ分擔割合ノ契約ニテ、大阪乙商店ヨリ東京甲商店ニ向ケ代價六千圓ノ商品ヲ販賣ノ爲メ積送シ乙商店ハ旨丙商店ヘモ通知ヲナス。

但乙商店ハ右貨物積送費金參拾圓現金ニテ支拂フ。

二、東京甲商店ハ右商品ヲ受取り、東京倉庫會社ニ寄託ス、但甲商店ハ此際持込費參拾圓現金ニテ支拂フ。

三、甲商店ハ右貨物全部ヲ品川商會ヘ六千六百圓ニテ現金賣ヲナス。

四、甲商店ハ右貨物ノ倉敷料金拾貳圓ヲ現金ニテ支拂フ。

五、甲商店ハ右貨物全部賣上濟ニ付賣上勘定書ヲ作成シ大阪乙商店及ビ神戸丙商店ニ向ケ郵送セリ。

賣上總高 金六千六百圓也
内

商品原價及乙商店支拂費用	金六千〇參拾圓
甲商店支拂ノ持込費	金參拾圓
甲商店支拂ノ倉敷料	金拾貳圓
甲商店受取ルベキ賣上手數料	金百參拾貳圓
小計	金六千貳百〇四圓
差引利益高	金參百九拾六圓
依テ各自利益高	
甲商店ノ利益高	金百九拾八圓
乙商店ノ利益高	金百拾八圓八拾錢
丙商店ノ利益高	金七拾九圓貳拾錢

六、甲商店ハ本日次ノ通り第一銀行ヲ經テ送金ス、右送金高ニ對シ同銀行宛小切手ヲ振出ス。

乙商店ヘ金六千四百拾八圓八拾錢

丙商店ヘ金七拾九圓貳拾錢

記帳練習

例題第六

主簿	{ 仕譯日記帳 元帳
補助簿	{ 金錢出納帳 組合商品賣買帳

大正四年八月

一日 次ノ資産負債ニテ商業ヲ始ム。

資産ノ部

一、現金有高	金參百貳拾圓五拾錢
一、第一銀行當座預金高	金五百貳拾五圓
一、商品	金八百八拾圓
土佐節 壹百貫目 拾貫目	金參拾八圓替
鰯 貳拾箱 壹箱	金貳拾五圓替
一、家屋及地所見積高	金六百圓
一、什器見積高	金貳百圓
一、受取手形	金五百圓

金山永三郎振出當店宛約手第一〇三號六月十日

附日附後二ヶ月拂。

負債ノ部

一、大阪橋本商店へ掛金未拂高	金拾六圓五拾錢
一、支拂手形	金壹百五拾圓

當店振出岩本商店宛約手第五二號五月廿五日附日附後三ヶ月拂。

二 日 大阪橋本商店ヨリ委託販賣ノ爲メ次ノ通り受取ル、但シ積卸車力賃金壹圓八拾錢ヲ現金ニテ支拂フ。

一、赤穂鹽 九百俵	金壹圓ニ付 壹俵八分替
	此金五百圓

同日 岩本商店ヨリ次ノ通り商品買入レ代金ノ内金五百圓ハ金山永三郎ヨリ受取リノ約手第一〇三號ヲ渡シ殘額ハ掛トス。

一、元揃昆布 壹百石 壹百石ニ付	金四百貳拾圓替
------------------	---------

此金四百貳拾圓

一、長切昆布 壹百石 百石ニ付	金參百八拾圓替
	此金參百八拾圓

五日 横濱森田商店及ビ當店兩名ノ組合勘定ニテ同店へ次ノ通り汽車便ニテ積送ス、但損益ハ平分ノ約トス。

一、長切昆布 壹百石 百石ニ付	金參百八拾圓替
	此金參百八拾圓
一、鰯 貳拾箱 壹箱ニ付	金貳拾五圓替
	此金五百圓

右荷造運送費共金拾參圓八拾六錢現金ニテ支拂フ。

六 日 加藤商店へ橋本商店販賣委託品ヲ賣渡シ、代金ノ内半額ハ現金ニテ受取リ、半額ハ同店振出第三銀行宛小切手ニテ受取ル、但右小切手ハ第一銀行ニ當座預ケトス。

一、赤穂鹽 參百俵	金壹圓ニ付 壹俵五分替
	此金貳百圓

同日 函館松尾商店ヨリ同店及ビ當店ノ兩名組合ニテ次ノ通り受取ル、但損益ハ等分ノ約。

一、元揃昆布 參百石 百石ニ付	金四百參拾圓替
	此金壹千貳百九拾圓
一、長切昆布 參百石 百石ニ付	金參百八拾圓替
	此金壹千壹百四拾圓

右持込車力賃金參圓九拾錢現金ニテ支拂フ。

八 日 金山商店へ橋本商店販賣委託品ヲ賣渡シ、代金トシテ同店振出當店宛、本日付本月十三日拂ノ約束手形第一二〇號ヲ受取り直ニ第一銀行ニ取立ノ依頼ヲナス。

一、赤穂鹽 六百俵 金壹圓ニ付 壹俵五分替
此金四百圓

同日 名古屋佐野商店ヨリ、次ノ通り買附委託ヲ受ケ手附金トシテ、金參百圓商業銀行宛送金手形ニテ受取ル、但右手形ハ直ニ第一銀行ニ當座預ケトス。

一、元揃昆布 參百石
一、長切昆布 貳百石

同日 橋本商店販賣委託品賣上濟ニツキ仕切狀ヲ郵送ス、但同店手取金ハ追テ送金ノコトトス。

一、賣上總高 金六百圓
内立替拂
一、積卸車力賃 金壹圓八拾錢
一、倉敷料 金參圓七拾錢
一、賣上手數料 金拾貳圓
小計 金拾七圓五拾錢
差引同店手取金 金五百八拾貳圓五拾錢

九 日 名古屋佐野商店買付委託品ニ對シ、松尾商店組合商品次ノ通り積送ス。

一、元揃昆布 參百石 百石ニ付 金四百五拾圓替

此金壹千參百五拾圓

一、長切昆布 貳百石 百石ニ付 金四百拾圓替

此金八百貳拾圓

但佐野商店負擔荷造及ビ運送費金參圓七拾五錢、現金ニテ支拂フ、送狀要領ハ次ノ如シ。

一、元揃昆布 參百石 百石ニ付 金四百五拾圓替

一、長切昆布 貳百石 百石ニ付 金四百拾圓替

合計 金貳千壹百七拾圓

外ニ立替金

一、荷造及運送費 金參圓七拾五錢

一、手數料 金四拾參圓四拾錢

小計 金四拾七圓拾五錢

總計 金貳千貳百拾七圓拾五錢

内去八日受取高 金參百圓

差引佐野商店へ貸金壹千九百拾七圓拾五錢

十日 大阪山本商店ヨリ同店及ビ當店ノ組合ニテ次ノ通り商品受取ル、但損益ハ平分ノ約

一、三田尻鹽 壹千五百俵 百俵ニ付 金七拾四圓替

此金壹千壹百拾圓

此向拂運賃金七圓五拾錢現金ニテ支拂フ。

十二日 名古屋佐野商店ヨリ同店買附品代價殘額金壹千九百拾七圓拾五錢商業銀行宛送金手形ニテ受取り直ニ第一銀行へ當座預ケトス。

同日 室山商店へ次ノ商品ヲ賣渡ス。

一、長切昆布(松尾商店組合品) 壹百石 百石ニ付
金四百拾圓替 此金四百拾圓

一、土佐節 五拾貫 拾貫ニ付 金四拾貳圓替
此金貳百拾圓

右代金次ノ通り受取り手形ハ第一銀行へ取立ノ依頼
ヲナス。

一、同店振出當店宛本日付來ル二十日拂約手第一五
五號 金參百拾圓

一、現金 金參百拾圓

同日 今井商店ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

一、鰯 五拾箱 壹箱 金貳拾貳圓替 金壹千壹百圓

十三日 去ル八日金山商店ヨリ受取ノ約手本日期日ニ
ツキ代金取立ノ上當座預金ニ振込ノ旨第一銀行ヨリ
通知ヲ受ク。

同日 函館松尾商店組合販賣品賣上濟ニ付、同店へ仕
切狀郵送ス、但同店手取金ハ追テ送金ノコトトス。

一、賣上總高 金貳千五百八拾圓

内立替拂

一、持込車力賃 金參圓九拾錢

一、倉敷料 金五圓拾六錢

一、賣上手敷料 金貳拾五圓八拾錢

小計 金參拾四圓八拾六錢

差引 金貳千五百四拾五圓拾四錢

商品原價及松尾商店立替金 金貳千四百參拾圓

差引利益金 金壹百拾五圓拾四錢

各自利益高 金五拾七圓五拾七錢

依テ松尾商店手取金 貳千四百八拾七圓五拾七錢

同日 瀧川商店へ次ノ通り賣渡シ代金ノ内半額ハ現
金ニテ受取り殘額ニ對シ岩本商店受取、同店宛爲替手
形本日付一覽後三日拂第五〇四號ヲ振出ス、但岩本商
店ニ對シ支拂フベキ同額ノ負債アルニヨル。

一、鰯 貳拾四箱 壹箱 金貳拾五圓替 金六百圓

十五日 新潟伊藤商店ヨリ、同店當店及ビ氷川商店三名
ノ組合ニテ第一組合商品受取ル、損益ハ平分ノ約。

一、長切昆布 五百石 百石ニ付 金參百七拾圓替
此金壹千八百五拾圓

一、緋 五千貫 百貫ニ付 金參拾圓貳拾錢替
此金壹千五百十圓

右向拂運賃金貳拾五圓現金ニテ支拂フ。

十六日 近藤商店へ山本商店組合販賣品ヲ賣渡ス。

一、三田尻鹽 壹千五百俵 百俵ニ付 金七拾六圓替
此金壹千壹百四拾圓

右代金トシテ同店振出第一銀行宛小切手受取り直ニ
同銀行ニ當座預ケトス。

同日 大阪山本商店へ同店組合商品賣上濟ニ付仕切
狀ヲ郵送ス、其仕切狀要領次ノ如シ。

一、賣上總高	金壹千壹百四拾圓
内立替拂	
一、車力賃	金七圓五拾錢
一、倉敷料	金五圓
一、賣上手敷料	金貳拾貳圓八拾錢
小計	金參拾五圓參拾錢
差引	金壹千壹百四圓七拾錢
商品原價山本商店立替共	金壹千壹百拾圓
差引損失高	金五圓參拾錢
各自損失高	金貳圓六拾五錢

依テ山本商店手取金壹千壹百七圓參拾五錢

十八日 瀧川商店ヨリ同店受取函館松尾商店振出當店宛額面金貳千四百八拾七圓五拾七錢本月十五日付一覽後三日拂ノ爲手呈示アリタルニツキ支拂引受ヲナス、但松尾商店へ支拂フベキ同額ノ負債アルニヨル。

同日 去五日横濱向積送シタル組合商品賣上濟ノ由ニテ森田商店ヨリ賣上勘定書郵送シ同時ニ當店手取金九百貳拾五圓七拾八錢ヲ現送シ來レリ利益金ハ各自金參拾貳圓九拾貳錢宛トス。

十九日 京都中野商店へ同店及ビ當店ノ組合ニテ次ノ商品積送ス、但損益ハ平分ノ約。

一、元揃昆布 壹百石 百石ニ付 金四百貳拾圓替
此金四百貳拾圓

一、錫 貳拾六箱 壹箱 金貳拾參圓替
此金五百九拾八圓

右荷造積込費金拾參圓九拾錢現金ニテ支拂フ。

二十日 瀧川商店へ伊藤商店第一組合商品次ノ通り賣渡ス。

一、長切昆布 參百石 百石ニ付 金參百八拾貳圓替
此金壹千百四拾六圓

一、緋 五千貫 百貫ニ付 金四拾貳圓替
此金貳千壹百圓

代金ハ次ノ通り受取リ小切手ハ第一銀行ニ當座預ケトナス。

一、同店振出三井銀行宛小切手 金貳千七百圓
一、現金 金五百四拾六圓

同日 去十二日室山商店ヨリ受取リノ約手本日期日ニツキ取立ノ上當座預金ニ振込ミタル旨第一銀行ヨリ通知アリタリ。

同日 吉川商店ヨリ次ノ通り買入レ代金ハ第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

一、元揃昆布 貳百石 百石ニ付 金四百貳拾圓替
此金八百四拾圓

一、長切昆布 貳百石 百石ニ付 金參百七拾圓替
此金七百四拾圓

二十一日 去十八日瀧川商店へ支拂保證ノ手形本日期日ニツキ第一銀行宛小切手ニテ支拂フ。

同日 名古屋佐野商店へ同店當店及當地太田商店ノ三名組合ニテ次ノ商品積送ス、但損益ハ平分ノ約。

一、元揃昆布 貳百石 百石ニ付 金四百貳拾圓替
此金八百四拾圓

一、長切昆布 貳百石 百石ニ付 金參百七拾圓替
此金七百四拾圓

右荷造積込費金四圓現金ニテ支拂フ。

二十二日 室山商店へ伊藤商店第一組合商品ヲ賣渡ス、代金ノ内金五百圓ハ三井銀行宛小切手ニテ受取り、殘額ニ對シテハ同店振出本日付、日附後一ヶ月拂ノ約手ヲ受取ル。

一、長切昆布 貳百石 百石ニ付 金參百八拾圓替
右小切手ハ第一銀行ニ當座預トケス。

同日 新潟伊藤商店へ同店第一組合商品賣上濟ニツキ賣上勘定書ヲ郵送シ氷川商店へモ其旨通知ス、各自手取金ハ追テ送金ノコト。

一、賣上總高	金四千六圓
内立替拂	
一、向拂運賃	金貳拾五圓
一、倉敷料	金拾貳圓五拾貳錢
一、賣上手數料	金四拾圓六錢
小計	金七拾七圓五拾八錢
商品原價及伊藤商店立替金	金參千參百六拾圓

合計	金參千四百四拾壹圓五拾八錢
差引利益高	金五百六拾四圓四拾貳錢
各自利益高	金壹百八拾八圓拾四錢
依テ伊藤、氷川ノ兩商店各手取金	金壹千參百八圓拾四錢

二十三日 去十九日京都中野商店向積送シタル組合商品賣上濟ノ由ニテ仕切狀ヲ郵送シ來レリ、但利益金拾七圓四拾錢ニテ當店手取金壹千四拾九圓參拾錢ハ追テ送金ノ約ナリ。

二十五日 當店振出岩本商店宛約手金壹百五拾圓本日期日ニツキ現金ニテ支拂フ。

同日 岩本商店ヨリ次ノ通買入ル。

一、元揃昆布 壹百五拾石 百石ニ付	金四百貳拾圓替	此金六百參拾圓
一、長切昆布 百石 百石ニ付	金參百八拾圓替	此金參百八拾圓

代金ノ支拂次ノ通り。

一、當店振出第一銀行宛小切手	金壹千圓
一、現金	金拾圓

同日 新潟伊藤商店ヨリ同店及ビ當店ノ組合ニテ第二組合商品次ノ通り受取ル、但損益分擔ハ同店ハ三分ノ二當店ハ三分ノ一トス。

一、鯿 五千貫 百貫ニ付 金參拾圓替 金壹千五百圓

向拂運賃金貳拾壹圓現金ニテ支拂フ。

二十六日 静岡宇野商店へ同店及ビ當店ノ組合ニテ販賣ノ爲メ積送ス、但損益分擔ハ當店ハ三分ノ二同店ハ三分ノ一ノ約ナリ。

一、元揃昆布 壹百石 百石ニ付 金四百參拾圓替
 一、長切昆布 壹百石 百石ニ付 金參百八拾圓替
 右積込諸入費金壹圓八拾錢現金ニテ支拂フ。

同日 京都中野商店ヨリ同店向組合商品代當店取手金壹千四拾九圓參拾錢本日商業銀行宛送金手形ニテ受取リ右手形ハ第一銀行へ當座預ケトス。

同日 瀧川商店へ伊藤商店第二組合商品ヲ賣渡ス。

一、鯪 參千貫 百貫ニ付 金參拾五圓替
 此金壹千〇五拾圓

右代金ハ左ノ通り受取リ小切手ハ第一銀行へ當座預ケトナス。

一、同店振出三井銀行宛小切手 金壹千圓
 一、現金 金五拾圓

二十七日 伊藤商店及ビ氷川商店へ伊藤商店第一組合商品ノ各手取金ヲ第一銀行宛小切手ニテ送付ス。

同日 富田商店へ伊藤商店第二組合品ヲ現金ニテ賣渡ス。

一、鯪 貳千貫 百貫ニ付 金參拾參圓替
 此金六百六拾圓

二十八日 本月二十五日受取ノ新潟伊藤商店第二組合商品賣上濟ニツキ賣上計算書及ビ同店手取金ヲ現金ニテ同店へ送付ス。

一、賣上總額	金壹千七百拾圓
内立替金	
一、向拂運賃	金貳拾壹圓
一、倉敷料	金拾七圓四拾錢
一、手数料	金參拾四圓貳拾錢
小計	金七拾貳圓六拾錢
商品原價及伊藤商店立替金	金壹千五百圓
合計	金壹千五百七拾貳圓六拾錢
差引利益高	金壹百參拾七圓四拾錢
伊藤商店利益高	金九拾壹圓六拾錢
當店利益高	金四拾五圓八拾錢
依テ伊藤商店手取金	金壹千五百九拾壹圓六拾錢

三十日 去二十六日静岡宇野商店向組合商品賣上濟ニ付同店ヨリ仕切狀受取ル、但當店手取金八百拾貳圓六拾錢ハ現送シ來ル。

三十日 今井商店へ掛金殘額壹千壹百圓現金ニテ支拂フ。

三十一日 岩本商店ヨリ大阪橋本商店振出當店宛本月二十五日付一覽後五日拂爲手金六百圓ノ呈示アリタルニツキ支拂ノ保證ヲナス、但橋本商店ヨリ同額ノ負

債アルニヨル。

同日次ノ通り現金ニテ支拂ヲナス。

一、家屋増築費 金參拾八圓

一、雇人給料 金七拾圓

同日本日普通決算ヲナス、棚卸次ノ通り。

一、家屋及地所見積高 金四百圓

一、營業用什器見積高 金壹百貳拾圓

一、賣殘商品見積高 金參百七拾五圓

一、土佐節 五拾貫 拾貫 金參拾五圓替

一、元揃昆布 五拾石 百斤 金四百圓替

一、名古屋佐野商店向組合商品 原價ノ儘。

試算表

大正 年 月 日

勘定科目		借方	貸方
1	資 本		2,858 —
2	現 金	4,024 88	1,464 51
3	當 座	9,941 45	8,807 85
4	商 品	5,370 —	5,098 —
5	不 動	638 —	
6	什 器	200 —	
7	受 取 手	1,470 —	1,210 —
8	橋 本 商 店	600 —	600 —
9	支 拂 手	2,637 57	3,237 57
10	橋 本 商 店 組 合 販 賣 品	600 —	600 —
11	森 田 商 店 組 合 積 送 品	446 93	478 85
12	森 田 商 店	446 93	446 93
13	松 尾 商 店 組 合 販 賣 品	2,580 —	2,580 —
14	松 尾 商 店	2,487 57	2,487 57
15	雜 費		43 78
16	手 數 料		178 26
17	佐 野 商 店	2,445 15	1,917 15
18	山 本 商 店 組 合 販 賣 品	1,140 —	1,140 —
19	山 野 商 店 買 付 委 託 品	2,217 15	2,217 15
20	山 本 商 店		1,107 35
21	今 井 商 店	1,100 —	1,100 —
22	損 益	2 65	291 51
23	岩 本 商 店	300 —	300 —
24	伊 藤 商 店 第 一 組 合 販 賣 品	4,006 —	4,006 —
25	伊 藤 商 店	3,552 14	5,143 74
26	氷 川 商 店	188 14	188 14
27	中 野 商 店 向 組 合 積 送 品	515 95	533 35
28	中 野 商 店	1,049 30	1,049 30
29	佐 野 商 店 向 組 合 積 送 品	528 —	
30	太 田 商 店	825 —	
31	伊 藤 商 店 第 二 組 合 販 賣 品	1,710 —	1,710 —
32	宇 野 商 店 向 組 合 積 送 品	541 20	542 —
33	宇 野 商 店	270 60	270 60
34	給 料	70 —	
		51,607 61	51,607 61

第八章 損益金ノ處分法

元帳決算ヲ行ヒテ算定シ得タル、一營業期間ノ純損益ヲ如何ニ處理スベキカヲ個人營業ノ場合ト會社組織ノ營業ノ場合トニ分チテ次ニ之ヲ述ベム。

第一節 個人營業ノ場合

個人營業ノ場合ニ在リテハ損益ノ處分ハ一ニ資本主ノ任意ニテ何等ノ拘束ヲ受ケザルヲ以テ一定セズ依テ

(甲)純利益アリタルトキハ

- 一、店主ノ營業所得トシテ店主之ヲ收得スル場合。
- 二、店主ニ於テ一部ヲ收得シ一部ヲ營業資本ノ内ニ加ヘ正味資本高ヲ増加スル場合。
- 三、店主ニ於テ一部ヲ收得スルト共ニ他ノ一部ヲ店員ニ賞與スル場合。
- 四、或ハ一部ヲ不時ノ損失準備、所有物減價準備、滯貸準備等トシテ積立テ置ク場合。

(乙)純損失アリタリトキハ

- 一、資本金額ノ中ヨリ控除シ、正味資本高ヲ減少セシムル場合。
- 二、準備積立金アルトキハ其中ヨリ補充シ資本金額ヲ動かサザル場合。

等種々ノ方法ニ出ヅルナルベシ、今次ニ其仕譯記帳ノ法

ヲ示サム。

(一)當期純利益金壹千圓ヲ資本主ノ所得トシテ現金ヲ渡ス。

(借方)損益 1,000.— (貸方)現金 1,000.—

(二)當期純利益金八百圓ヲ資本金ノ内ニ加フ。

(借方)損益 800.— (貸方)資本主 800.—

(三)當期純利益金貳千圓ノ内、五百圓ハ店員賞與金トシ殘額ハ資本金額ニ加フ。

(借方)損益 2,000.— (貸方)賞與金 500.—
資本主 1,500.—

(四)店員賞與金五百圓ヲ本日店員一同へ現金ニテ配與ス。

(借方)賞與金 500.— (貸方)現金 500.—

(五)當期純利益金四千圓ヲ次ノ通り處分スルコトトス。

金壹千圓	積立金	
金五百圓	滯貸準備金	
金五百圓	所有物減價償却積立金	
金八百圓	店員慰勞金	
金壹千貳百圓	資本金ノ内へ	
(借方)損益 4,000.—	(借方)積立金 1,000.—	
	滯貸準備金 500.—	
	所有物減價償却積立金 500.—	
	賞與金 800.—	

資本主 1,200.—

(六)商品掛賣勘定ノ内金參百五拾圓ハ到底取立ノ見込ナキニヨリ缺損ト見做シ滯貸準備金ノ内ヨリ補充スルコトトス。

(借方)滯貸準備金 350.— (貸方)諸向貸借 350.—

(七)当期純損失金四百圓ハ資本金額ノ内ヨリ補充スルコトトス。

(借方)資本主 400.— (貸方)損益 400.—

(八)当期純損失金參百圓ハ積立金ノ内ヨリ補充スルコトトス。

(借方)積立金 300.— (貸方)損益 300.—

(九)營業家屋壹棟價格金參千圓ト記帳シアルモ本日評價ノ處價格金貳千八百圓ト決定シ差引減價貳百圓ハ所有物減價償却積立金ノ内ヨリ補充スルコトトス。

(借方)所有物減價償却積立金 200.— (貸方)不動産 200.—

第二節 會社營業ノ場合

會社ハ其營業期間ノ純損益ヲ處分スルニ必ズ之ヲ出資社員ノ協議ニ待チ特ニ株式組織ノ會社ニ在リテハ株主總會ノ議ニ附スベキモノナルヲ以テ個人商店ニ於ケルガ如ク主腦者ノ任意ナル處分ヲ許サザルナリ、又會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ

準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ストノ商法ノ規定ニ從ハザルベカラズ、而シテ純損失ヲ生ジタル場合ナリト雖モ、會社ハ創立ノ際資本金額ノ登記ヲ爲スベキモノナルヲ以テ個人商店ノ場合ノ如ク其損失高ヲ資本金額ヨリ控除シ、補充スルコトヲズ、斯カル場合ニハ其損失高ヲ一時次期ニ繰越シ置キ、次期ノ利益金ヲ以テ之ヲ補充スルカ或ハ社員又ハ株主總會ニ諮リテ、資本金額ヲ減ジ以テ補充ヲ爲シ、更ニ其登記ヲ爲スカ孰レカノ方法ヲ採ラザルベカラズ。

(一)當期間ノ純益金參萬五千圓ヲ次ノ如ク處分スルコトニ決ス。

一、積立金	金參千圓
一、滯貸準備金	金貳千圓
一、所有物減價償却積立金	金壹千五百圓
一、役員慰勞金	金貳千八百圓
一、次季繰越金	金七百圓
(借方)損益	35,000.—
(貸方)積立金	3,000.—

滯貸準備金	2,000.—
所有物減價償却積立金	1,500.—
配當金	25,000.—
役員慰勞金	2,800.—
繰越益金	700.—

(二)本日現金ニテ次ノ支拂ヲ爲ス。

一、配當金	金貳萬貳千圓		
一、役員慰勞金	金貳千八百圓		
(借方)配當金	22,000.—	(貸方)現金	24,800.—
役員慰勞金	2,800.—		

(三)本日決算ニ付前期繰越益金五百五拾圓ヲ當期ノ利益金ノ内ニ繰込ム。

(借方)繰越益金	550.—	(貸方)損益	550.—
----------	-------	--------	-------

(四)當期純損失金四百圓ハ次期ニ繰越スコトトス。

(借方)繰越損金	400.—	(貸方)損益	400.—
----------	-------	--------	-------

(五)代價貳千圓ノ土地ヲ現金ニテ買入レ、之レヲ積立金ノ内ヨリ振替フコトトセリ。

(借方)積立金	2,000.—	(貸方)損益	2,000.—
不動産	2,000.—	現金	2,000.—

20,000
2,800
22,800
550
400
2,000
2,000

第九章 單複二式ノ轉換手續

從來單記式簿記ニテ會計ヲ整理シ來タリタル商店ガ其業務ノ發展ニ由リ、會計整理法ヲ改メテ複記式簿記法ヲ採用セントスルガ如キ場合ナキニアラズ、斯ル際ニハ單式記帳法ヲ複式記帳法ニ變換スル手續ヲ行ハサルベカラズ次ニ其手續ノ大要ヲ述ベシ。

一、從來ノ單式組織ノ帳簿ニ基キ貸借對照表ヲ作成シ日記帳ニ記入スルコト。

二、新ニ複式組織ニ基ク仕譯帳ヲ新調スルコト。

三、日記帳ノ日記ニ基キ仕譯帳ニ仕譯記入スルコト。

四、仕譯ノ中人名勘定ヲ除キ其以外ノ勘定ニ基キ元帳ニ新ニ口座ヲ設ケ以テ轉記スルコト。

以上ノ手續ヲナサバ單式ノ日記帳及ビ元帳ハ忽チ變ジテ複式簿記法ノ主要帳簿トナリ茲ニ帳簿組織ノ變換ト同時ニ複式簿記ニ依レル會計整理法トナスコトヲ得ベシ。

第十章 帳簿ノ種類及ビ組織

簿記ノ目的ハ財産ノ増減變化ノ有様ヲ會計帳簿ニ記録シ計算スルノ方法ヲ研究スルニ外ナラズト雖モ、會計帳簿ヲ如何ニ組織スベキカヲ講究スルコトモ亦其主ナル目的ノ一ナリトス。

若シ夫レ會計帳簿ニシテ組織其當ヲ得ザランカ、取引ノ記録計算ニ混亂ヲ來シ、事業ノ經營上錯誤ヲ醸ス虞アルノミナラズ、偶々取引上ニ於テ、或ル事項ヲ調査スルノ必要ヲ生ジタリトモ、徒ラニ繁雜ナル手數ト多大ナル時間トヲ勞費スルノミニテ容易ニ其目的ヲ達シ得ラザルベシ如斯帳簿組織ノ適否ハ直ニ會計整理ニ多大ノ影響ヲ及ボスベキモノナレバ帳簿組織ノ研究ハ會計整理上決シテ輕視スベキモノニアラズ。

第一節 主要帳簿及ビ補助帳簿

凡ソ會計帳簿ノ種類及ビ其組織ハ營業ノ種類、取引ノ繁閑、規模ノ大小等ニヨリ異ナリ決シテ一樣ナラズト雖モ自ラ其間ニ一定ノ標準ナキニアラズ即チ普通性質上之ヲ大別シテ、主要帳簿及補助帳簿ノ二トス。

主要帳簿ハ既ニ前ニモ述べタル如ク、會計全般ノ有様ヲ一目瞭然タラシムベキ帳簿ニシテ、補助帳簿ハ或ル一種ノ勘定、又ハ或ル特殊ノ取引ニツキ、其詳細ヲ知ルノ用

ニ供スルモノヲ云フナリ、サレバ一見元帳ノミ主要帳ニシテ其他ハスベテ補助帳ナルガ如シト雖モ、日記帳、仕譯帳(仕譯日記帳)ノ如キハ直接或ハ間接ニ元帳記入ノ材料トナルベキ帳簿ナルヲ以テ普通是等ノ帳簿ヲモ合セテ主要帳簿トナスナリ。

今次ニ普通ニ行ハルル帳簿組織ノ種類ヲ示サム。

第一組織

主要帳簿 { 日記帳
仕譯帳 } 仕譯日記帳
元帳

補助帳簿 { 金錢出納帳
商品仕入帳
商品賣上帳 }

第二組織

主要帳簿 { 仕譯日記帳
元帳 }

補助帳簿 { 金錢出納帳
商品賣買帳
受取手形記入帳
支拂手形記入帳 }

第三組織

主要帳簿 { 仕譯日記帳
元帳 }

補助帳簿 { 金錢及當座預金出納帳
商品賣買帳
手形記入帳
積送品元帳
販賣委託品元帳
買付委託品元帳 }

第四組織

主要帳簿 { 仕譯日記帳
元帳 }

補助帳簿 { 金錢及當座預金元帳
商品賣買帳
手形記入帳
積送品元帳
委託品元帳
販賣組合品元帳
積送組合品元帳 }

第五組織

主要帳簿 { 仕譯日記帳
金錢出納帳
元帳 }

第六組織

主要帳簿 { 仕譯日記帳
金錢出納帳
商品賣買帳
元帳 }

補助帳簿 { 振替貯金出納帳
 當座預金出納帳
 商品賣買帳
 手形記入帳
 積送品元帳
 委託品元帳
 組合品元帳

第七組織

主要帳簿 { 現金仕譯日記帳
 元 帳

補助帳簿 { 以上各組織補助
 帳ヲ拾捨スベシ

補助帳簿 { 振替貯金出納帳
 當座預金出納帳
 手形記入帳
 積送商品元帳
 委託商品元帳
 組合商品元帳

第八組織

主要帳簿 { 仕譯式元帳

補助帳簿 { 以上各組織ノ補助
 帳ヲ拾捨スベシ

第二節 取引證憑書類

取引證憑書類トハ會計帳簿ニ記入ノ資料及ビ參考トナルベキモノニシテ、注文狀、送狀、賣買契約書、賣上勘定書、代金受取證、其他取引上ニ使用セル各種ノ傳票等ノ如キ營業上取引關係人トノ間ニ互ニ受授スル書類ヲイフ。是等ノ書類ハ唯ダニ會計帳簿ニ記入ノ資料及ビ參考タルノミナラズ、後日取引上ノ行違ヒ、或ハ記帳上ノ錯誤等ヲ來タシタル場合ニ、唯一ノ有力ナル證據物件トナルベキモノナレバ、是等書類ノ整理保存ニツキテハ、十分ナル注意ヲ拂フベキナリ。

近時此等ノ取引證憑書類ヲ綴込ミテ一帳簿トシ以テ會計帳簿ニ代用スル一新法案出セラレタリ所謂「バウチャー式」ト稱スルモノ即チ是ナリ。此法ニ依ルトキハ却テ取

引關係ヲ明瞭ニシ且ツ事務ノ簡捷ヲ計リ得ル場合尠カラズ。

第三節 仕譯帳ノ分割

(甲) 金錢出納帳ヲ仕譯帳ノ一トスル帳簿ノ組織

一般ノ場合ニ於テハ金錢出納帳ヲ補助帳トシテ、使用スト雖モ、亦之ヲ主要帳ノ一トシテ使用スルコトアリ、主要帳トシテノ金錢出納帳ハ、金錢ノ收支ニ關スル取引ノミヲ仕譯日記帳ヨリ分離シテ、此帳簿ニ其仕譯ト共ニ日記ヲ記入スルナリ、從テ仕譯日記帳ニハ金錢ノ收支以外ノ取引ヲ記録シ、元帳ヘハ仕譯日記帳及ビ金錢出納帳ノ兩帳簿ヨリ轉記スルナリ。

今次ノ取引ヲ主要帳トシテノ金錢出納帳ニ記入シタル例ヲ示サン。

九月一日

- 一、資本主ヨリ現金貳千圓、商品參千圓ヲ元入トシテ受取ル(商品ノ元入レトシタル分ハ仕譯日記帳ニ記スベシ)。
- 一、甲某ヘ賣渡シタル商品代金五百圓現金ニテ受取ル。
- 一、乙某ヨリ買入レタル商品代金壹千貳百圓現金ニテ支拂フ。
- 一、丙某ヨリ買入レタル商品代金壹千圓ノ内半額ハ現金ニテ支拂ヒ半額ハ掛トス(掛買シタル分ハ仕譯日記帳ニ記入スベシ)。

一、本月分家賃トシテ金參拾圓現金ニテ支拂フ。

金錢出納帳

大正四年九月一日

摘要	元丁	借方	摘要	元丁	貸方
(資本主) 元入ノ内トシテ受取ル		1,000 00	(商品) 乙某ヨリ買入レタル商品代 支拂フ		1,200 00
(商品) 甲某へ賣渡シタル商品代金 受取ル		500 00	(商品) 丙某ヨリ買入レタル商品代 金ノ内支拂フ		500 00
			(營業費) 本月分支拂フ		30 00
					1,730 00
			本日手許有高		770 00
		2,500 00			2,500 00

本日手許有高トシテ未記セラレタル金額ハ翌日ニ至リ前日手許有高トシテ借方ニ黒記加算セラレルモノトス

此帳簿ニ記入サルベキ取引ハ、總テ金錢ノ收支ニ關スルモノノミニテ之レガ仕譯ヲ爲ストキハ、其借方若クハ貸方ノ何レカ一方ニハ必ズ金錢ナル科目ヲ設クベキモノナリ、故ニ一々金錢ナル科目ヲ記サズトモ相手方タル科目サヘ記サバ自ラ其取引ノ性質ヲ知ルコトヲ得ベシ、而シテ此帳簿ノ借方ハ收入ヲ示シ貸方ハ支出ヲ示スコト一般金錢勘定ノ場合ト異ルコトナシ之ヲ以テ、若シ借

方ニ商品ナル科目ヲ記ストキハ、之レ借方現金、貸方商品ナル仕譯ノ記サレタルモノト知リ、若シ貸方ニ支拂手形ナル科目ヲ記ストキハ、之レ借方支拂手形、貸方現金ノ仕譯ノ記入サレタルモノナルコトヲ知ルベシ。

斯ノ如ク該帳簿ハ金銀ヲ主トシテ、貸借ノ位置ヲ定メタレバ、記サレタル科目ハ其實反對ノ側ニアルベキモノナリ、故ニ之ヲ元帳ニ轉記スルニ當リテハ、借方ニ在ル科目ハ一々其科目口座ノ貸方ニ相手方ヲ金銀トシテ記シ又貸方ニ在ル科目ハ、其科目口座ノ借方ニ相手方ヲ金銀トシテ記入スベキナリ。

而シテ一方相手方タル現金ハ仕譯日記帳ニ於ケルガ如ク一取引毎ニ元帳ニ轉記セズ、借方合計ヲ元帳現金勘定口座ノ借方ニ、貸方合計ヲ同口座ノ貸方ニ一日分ヲ纏メテ一時ニ轉記スレバ足ルガ故ニ、現金ニ關スル取引ノ多キ場合ニハ手數ヲ省略スルコト尠カラザルベシ。

此帳簿ノ組織ニ依ルトキハ、元帳ニ於テ仕譯日記帳ヨリ轉記サレタルモノト、金錢出納帳ヨリ轉記サレタルモノトヲ區別スルガ爲メニ、仕譯丁數欄ニハ例ヘバ「仕1」「金5」ノ如ク記シテ兩者ノ混同ヲ避クベキナリ。

(乙) 金錢出納帳及ビ商品賣買帳ヲ仕譯帳トスル帳簿ノ組織。

金錢出納帳及ビ商品賣買帳ヲ共ニ、主要帳ノ内ニ加フルトキハ、金錢ノ收支ニ關スル取引ハ金錢出納帳ニ於テ、

商品ノ賣買ニ關スル取引ハ商品賣買帳ニ於テ仕譯シ、金錢及ビ商品ニ關係ナキ取引ノミヲ仕譯日記帳ニ於テ仕譯スルヲ要ス、元帳ヘハ此三帳簿ヨリ夫々轉記セラルベキナリ。

主要帳トシテノ商品賣買帳ハ、金錢出納帳ト其記入ノ方法ニ於テ異ル所ナク、借方ハ仕入、貸方ハ賣捌ヲ示スガ故ニ商品ヲ借方ニ生ズル取引ノ相手方科目ヲ借方ニ記シ、商品ヲ貸方ニ生ズル取引ノ相手方科目ヲ貸方ニ記スベシ、サレドモ此帳簿ノ組織ニ依ルトキハ商品ヲ現金ニテ賣買シタル取引ノ元帳ヘ二重記入トナルヲ避クベキ方法ヲ取ラザル可ラズ、例ヘバ商品ヲ買入レ代金百圓ヲ現金ニテ支拂ヒタル取引アリトセンカ、此取引ハ金錢出納帳ノ貸方ニ商品ナル科目ヲ以テ記サルルト同時ニ、商品賣買帳ノ借方ニ現金ナル科目ヲ以テ記サルルガ故ニ、元帳ヘハ商品勘定ノ借方ヘ二〇〇圓、金銀勘定ノ貸方ヘ二〇〇圓ト倍額ノ記入ヲ見ルノ不都合ヲ生ズルニ至ルベシ。

此二重記入ノ不都合ヲ避クルガ爲メニ、金錢出納帳ニハ商品及ビ諸口ナル二欄ヲ設ケ、若シ現金ト商品トノ取引アリタルトキハ、其金額ヲ商品欄ニ、商品以外ノモノト現金トノ取引アリタルトキハ之ヲ諸口欄ヘ記入シ、元帳ヘ轉記スルニ當リ、商品ニ對スル金額ダケヲ除キ其以外ノ科目ノミヲ轉記シ、現金勘定口座ヘハ商品、諸口兩欄ノ

ヲ合計轉記スベシ、而シテ又商品賣買帳ニハ現金及ビ諸口ノ二欄ヲ設ケ、商品ト金錢トノ取引ヲ現金欄ニ、其以外ノ取引ヲ諸口欄ニ記入シ、元帳轉記ノ際ニハ現金欄ニ記サレタルモノヲ除キ、其他ノ口座ノミヲ轉記シ現金、諸口兩欄ノ合計ヲ商品勘定口座ヘ轉記スベシ、斯クスルトキハ商品ト現金トノ取引モ金錢出納帳ヨリハ現金ノ分ダケ、商品賣買帳ヨリハ商品ノ分ダケ元帳ヘ轉記サレ、二記入ヲ避クルコトヲ得ベキナリ。

今前記ノ取引ニ依リ兩帳記入ノ雛形ヲ示サン。

金 錢 出 納 帳

大正四年一月九日

摘要	元丁	商品	諸口	摘要	元丁	商品	諸口
(資本主) 元入ノ内トシテ受ル			2,000 00	(商品) 乙某ヨリ買入レタル商品代		1,200 00	
(商品) 甲某へ賣渡シタル商品代金 受取ル		500 00		(商品) 丙某ヨリ買入レタル商品代			
				金ノ内支拂フ		500 00	
				(營業費) 本月分家賃支拂フ			30 00
							1,700 00
本日現金實勘高			500 00	本日支拂高			1,730 00
本日現金收入高			2,500 00	本日手許有高			770 00
							2,500 00

商 品 賣 買 帳

大正四年九月一日

摘要	元丁	現金	諸口	摘要	元丁	現金	諸口
(資本主) 元入ノ内トシテ受取リ 何々……………			3,000 00	(現金) 甲某へ現金ニテ賣渡ス		500 00	
(現金) 乙某ヨリ現金ニテ買入ル 何々……………		1,200 00		何々……………			
諸口 (現金) (丙某)			500 00				
丙某ヨリ買入ル 何々……………							
此代半額現金半額掛							
				本日現金實勘高			500 00
本日現金仕入高			1,700 00	本日賣捌合計			500 00
本日仕入合計			5,200 00				

元帳式仕譯日記帳

3.

商 品

月 日	科目	摘 要	借 方	貸 方	借 又 貸	残 高
9	1	資本主 元入高	3,000	—	借	3,000 —
		現金 甲某へ現金ニテ賣渡ス		500	—	2,500 —
		現金 乙某ヨリ現金ニテ買入ル	1,200	—	—	3,700 —
		諸口 丙某ヨリ買入レ半額ハ現金半 額ハ掛ケトス	1,000	—	—	4,700 —

4.

丙 某

月 日	科目	摘 要	借 方	貸 方	借 又 貸	残 高
9	1	現金 商品掛買借金		500	—	500 —

5.

營 業 費

月 日	科目	摘 要	借 方	貸 方	借 又 貸	残 高
9	1	現金 本月分家賃ヲ現金ニテ支拂フ	30	—	—	30 —

第四節 特別桁ノ利用

既ニ説明セシ仕譯帳ノ借方及ビ貸方ノ金額欄ヲ取引
中頻繁ニ起ル勘定ニ基キ、特ニ分割利用シテ、仕譯記帳ス

ルコトアリ、彼ノ六桁仕譯日記帳ノ如キハ其一例ナリ。

六桁仕譯日記帳ノ様式ハ次ニ示スガ如ク、借貸雙方ノ
金額ヲ現金、商品及ビ諸口ノ三欄ニ分割利用シ以テ取引
ヲ仕譯記入スルナリ。

依テ現金ノ收入及ビ商品ノ仕入アリタルトキハ、借方
ノ現金又ハ商品ノ欄ニ其金額ヲ記シ、若シ現金ノ支拂及
ビ商品ノ賣上アリタルトキハ、貸方ノ現金又ハ商品欄ニ
其金額ヲ記シ、現金、商品以外ナル勘定ノ金額ハ、諸口欄ニ
記シ仕譯スルモノトス、而シテ日々借方ノ總計金額ト、貸
方ノ總計金額ト相一致セバ、即仕譯記入ニ誤謬ナキモノ
ト見ル可シ。

尙ホ此帳簿ヨリ、元帳ヘノ轉記ハ諸口欄ノ金額ハ、普通
ノ仕譯帳ヨリスルガ如ク、勘定毎ニ元帳口座ニ夫々轉記
ヲナスモ、現金及ビ商品ノ金額ハ其合計ヲ一度ニ轉記ス
レバ可ナルヲ以テ、大ニ轉記ノ勞ヲ省クコトヲ得ベシ。

茲ニ現金及ビ商品ノ二欄ヲ設ケシハ、普通商人トシテ
最モ頻繁ニ起ル取引ノ種類ハ此二勘定ニ關スルコト多
キヲ以テ單ニ其一例ヲ示シタルノミ、サレバ營業ノ種類
ニヨリ是等以外ニ尙ホ頻繁ニ起ル勘定アルトキハ、代
フルニ其レ等ノ科目ヲ以テスルカ或ハ更ニ特別ニ桁數ヲ
増加シテ、八桁又ハ十桁トナスモ可ナリ。

一定ノ標準アルニアラズシテ、營業ノ種類、取引ノ繁閑、店員ノ多寡等ニ應ジ異ナルハ勿論、尙ホ營業家屋ノ構造如何等ニヨリ適宜斟酌シテ定ムベキモノナリ。

今次ニ最モ普通ナル事務分掌ノ一例ヲ示シ、併セテ其所屬帳簿ノ種類ヲ示サム。

販賣係	商品賣上帳	掛賣先元帳	商品有高帳
仕入係	商品仕入帳	掛仕入先元帳	
出納係	金錢出納帳		
計算係	總勘定元帳	仕譯日記帳	手形記入帳
		決算報告書類	
用度係	雜費支拂明細帳	所有物明細帳	

第七節 記帳順序及ビ引合

販賣係 商品ヲ販賣シタルトキ現金賣ナルトキハ、現金賣上傳票ニ其要點ヲ記入スルト共ニ、商品賣上帳ニ記帳シ傳票ハ現金出納係ニ廻送ス、若シ亦掛賣ナルトキハ、掛賣上傳票ヲ作り、商品賣上帳及ビ掛賣先元帳ニ其要點ヲ記入シ、傳票ハ計算係ニ廻送スルモノトス。

仕入係 ヨリ仕入傳票ト共ニ、商品ノ引渡シヲ受ケタルトキハ、其傳票ニ基キ商品有高帳ニ記帳ヲナシ、傳票ハ自己捺印ノ上關係ノ係ニ送付スベシ、而シテ商品有高帳ニ基キ、常ニ商品ノ賣價ヲ算定シ、定價表等ノ作成ヲ爲スベシ。

仕入係 商品ノ仕入ヲ爲シタルトキハ、先ヅ送狀ト對照シ貨物ヲ一々點檢シテ、仕入傳票ヲ作成シ其要點ヲ商品仕入帳ニ記帳シ、若シ掛仕入ナルトキハ、仕入先元帳ノ口座ニモ要點ヲ記入スベシ、而シテ傳票ハ各關係ノ係ニ送付スルモノトス、後日仕入先へ掛金支拂ヲナストキハ、支拂傳票ヲ作成シ、掛仕入先元帳ニ其要點ヲ記シ傳票ハ自己捺印ノ上各關係ノ係ニ回送スベシ。

出納係 各係ヨリ回送シ來タリタル傳票ニ基キ、現金ノ受拂ヲナスト共ニ、金錢出納帳ニ記入ヲナシ、支拂傳票ハ計算係ニ其他ノ傳票ハ發送ノ係ニ返スモノトス、而シテ日々帳簿ノ締上ゲヲナシ、現金在高ト照合スベシ。

計算係 各係ヨリ回送セル傳票其他ノ書類ニ基キ、主要帳簿ニ、夫々記帳計算ヲナシ、傳票及ビ其他ノ書類ハ、整理ノ上之ヲ保管スベシ。

帳簿記入ハ、取引劇務ノ際ニ於テ爲スベキモノナレバ時ニハ、誤謬ナシトセズ、サレバ時々、各係ノ帳簿ト突合セヲ爲シ、此等ノ錯誤ヲ未然ニ防グノ方法ヲ採リ、以テ記帳ヲシテ、常ニ正確ナラシメザルベカラズ、若シ然ラザルトキハ、遂ニハ容易ニ收拾スベカラザルニ至ルベシ。

記帳練習

例題第七

帳簿組織ハ主要帳トシテ、現金出納帳、仕譯日記帳及ビ

元帳ヲ使用ス。

又本例題ニ依リ、現金出納帳、商品賣買帳、仕譯日記帳及ビ元帳ヲ主要帳トシタル帳簿記入ノ練習ヲナスベシ。

大正四年十月一日

一、次ノ資本ニテ商業ヲ開始ス。

一、商品	金貳千壹百參拾圓
上松石油 貳百五拾函 壹函	金參圓貳拾錢替
手印石油 貳百五拾函 壹函	金參圓替
新松石油 貳百函 壹函	金貳圓九拾錢替

一、現金	金貳千五百圓
------	--------

一、諸帳簿印刷代其他諸雜費金五拾圓ヲ現金ニテ支拂フ。

一、大橋商店へ次ノ商品現金ニテ賣渡ス。

上松石油 壹百函 壹函	金參圓五拾五錢替
-------------	----------

一、近藤商店へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。

上松石油 壹百函 壹函	金參圓五拾五錢替
手印石油 八拾函 壹函	金參圓貳拾錢替

一、岩本商店ヨリ現金ニテ次ノ商品ヲ買入ル。

上松石油 壹百五拾函 壹函	金參圓貳拾錢替
---------------	---------

一、中野商店ヨリ次ノ商品ヲ買入レ半額ハ掛ニテ半額ハ現金ニテ支拂フ。

種油 參拾石 壹石	金四拾五圓替
-----------	--------

、十月二日

一、大橋商店へ次ノ商品ヲ賣渡シ代金ノ内半額ハ現金ニ

テ受取り、半額ハ掛ケトス。

新松石油 貳百函 壹函	金參圓拾錢替
-------------	--------

一、岩本商店ヨリ次ノ通り買入レ、代金ノ内半額ハ現金ニテ支拂ヒ半額ニ對シテハ、來ル十日拂ノ約束手形ヲ振出ス。

上松石油 壹百五拾函 壹函	金參圓貳拾錢替
---------------	---------

一、加藤商店へ次ノ通り商品ヲ賣渡シ、代金ノ内金七百圓ハ現金ニテ受取り殘額ニ對シ來ル二十日拂ノ約束手形ヲ受取ル。

上松石油 貳百函 壹函	金參圓五拾五錢替
-------------	----------

手印石油 壹百函 壹函	金參圓貳拾錢替
-------------	---------

一、次ノ通り現金ニテ支拂フ。

家賃壹ヶ月分	金八拾圓
--------	------

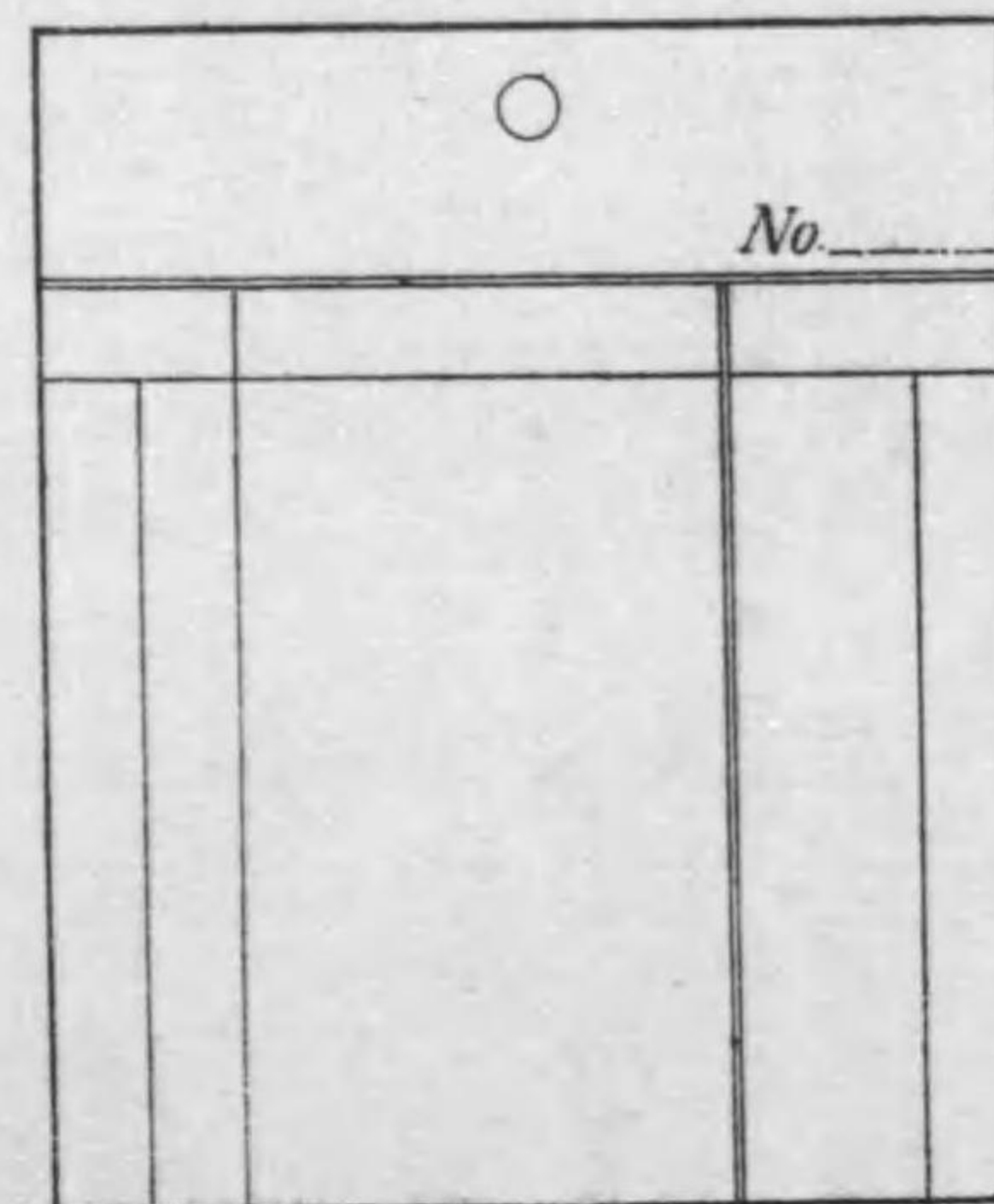
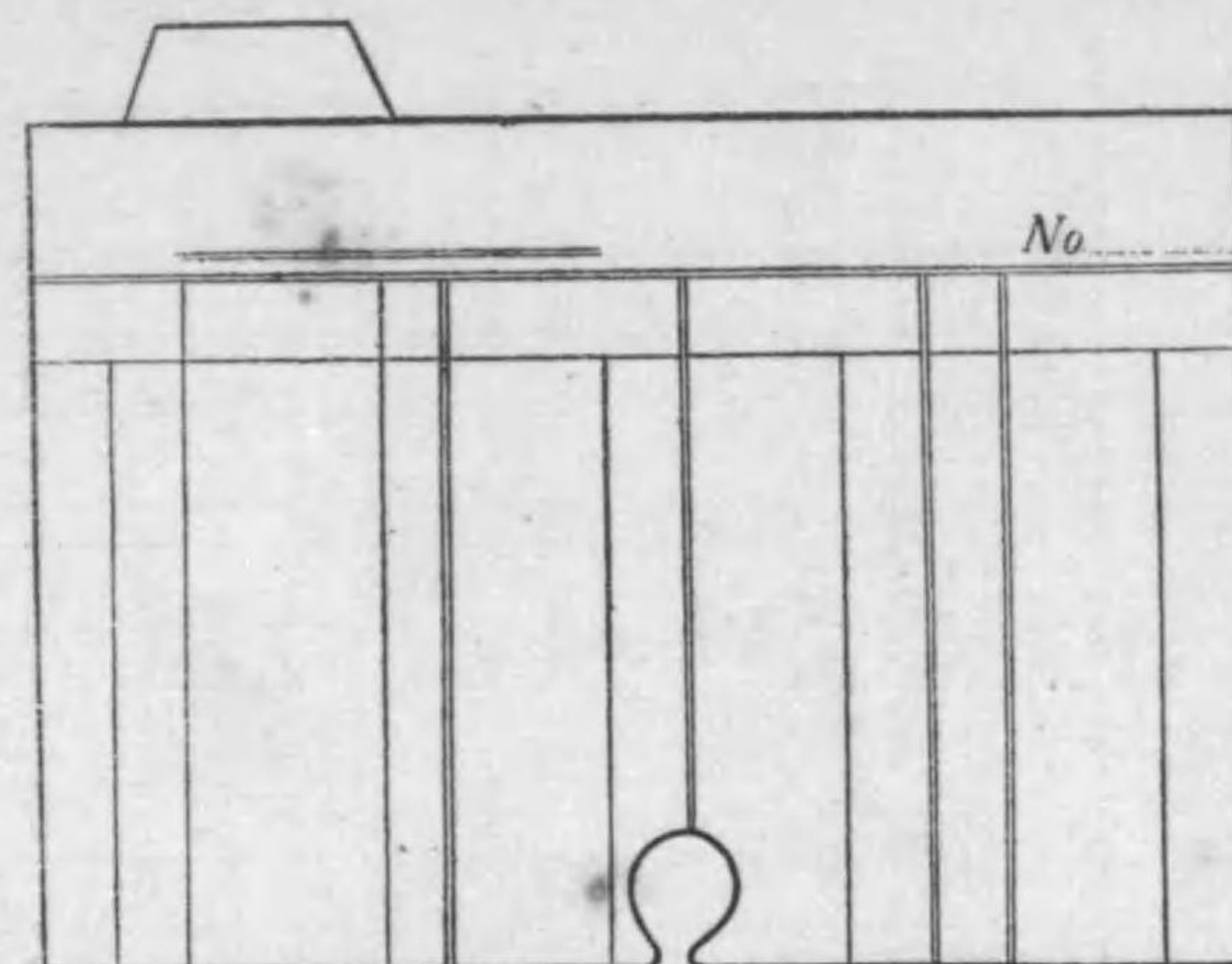
税金	金五拾圓
----	------

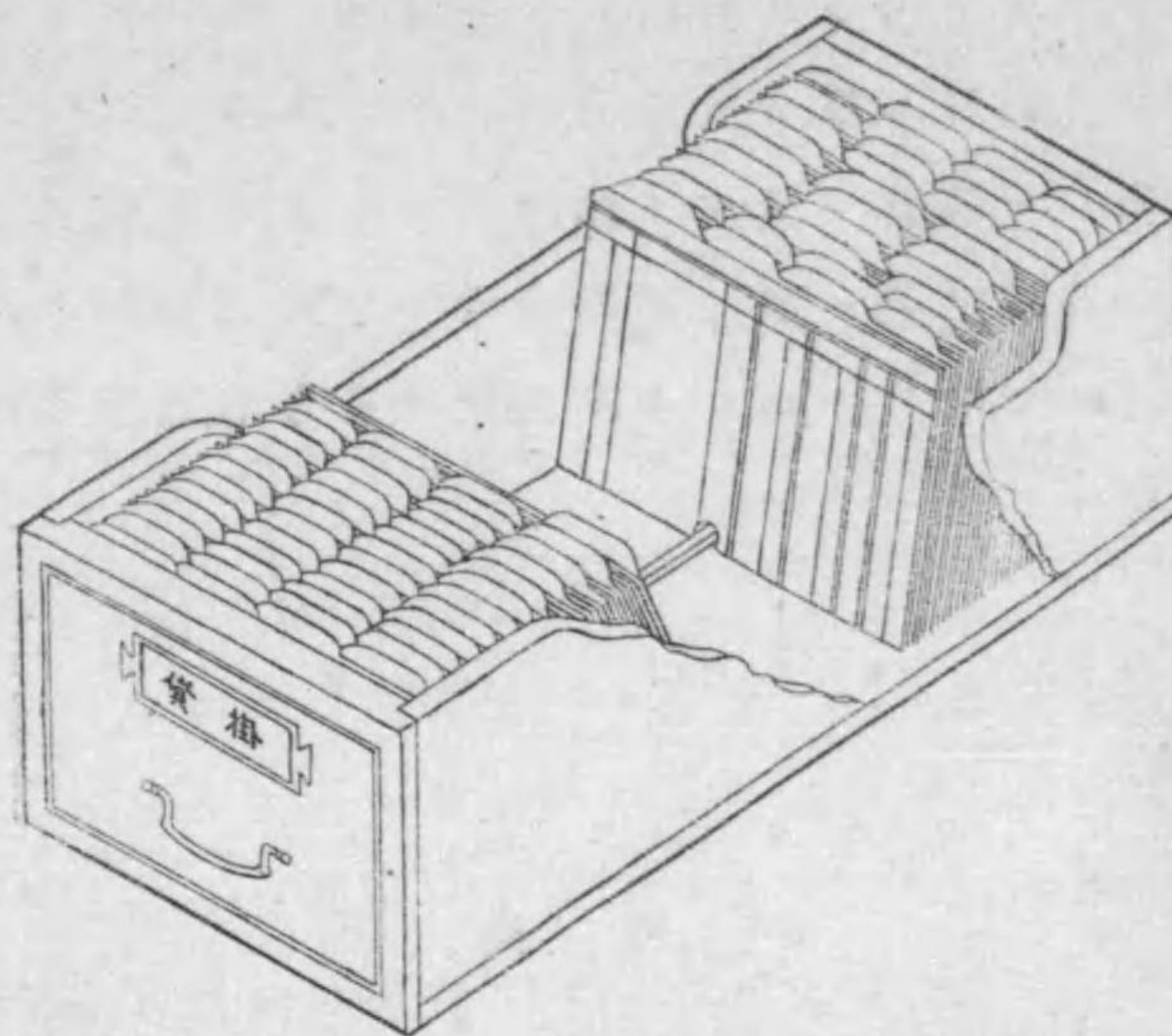
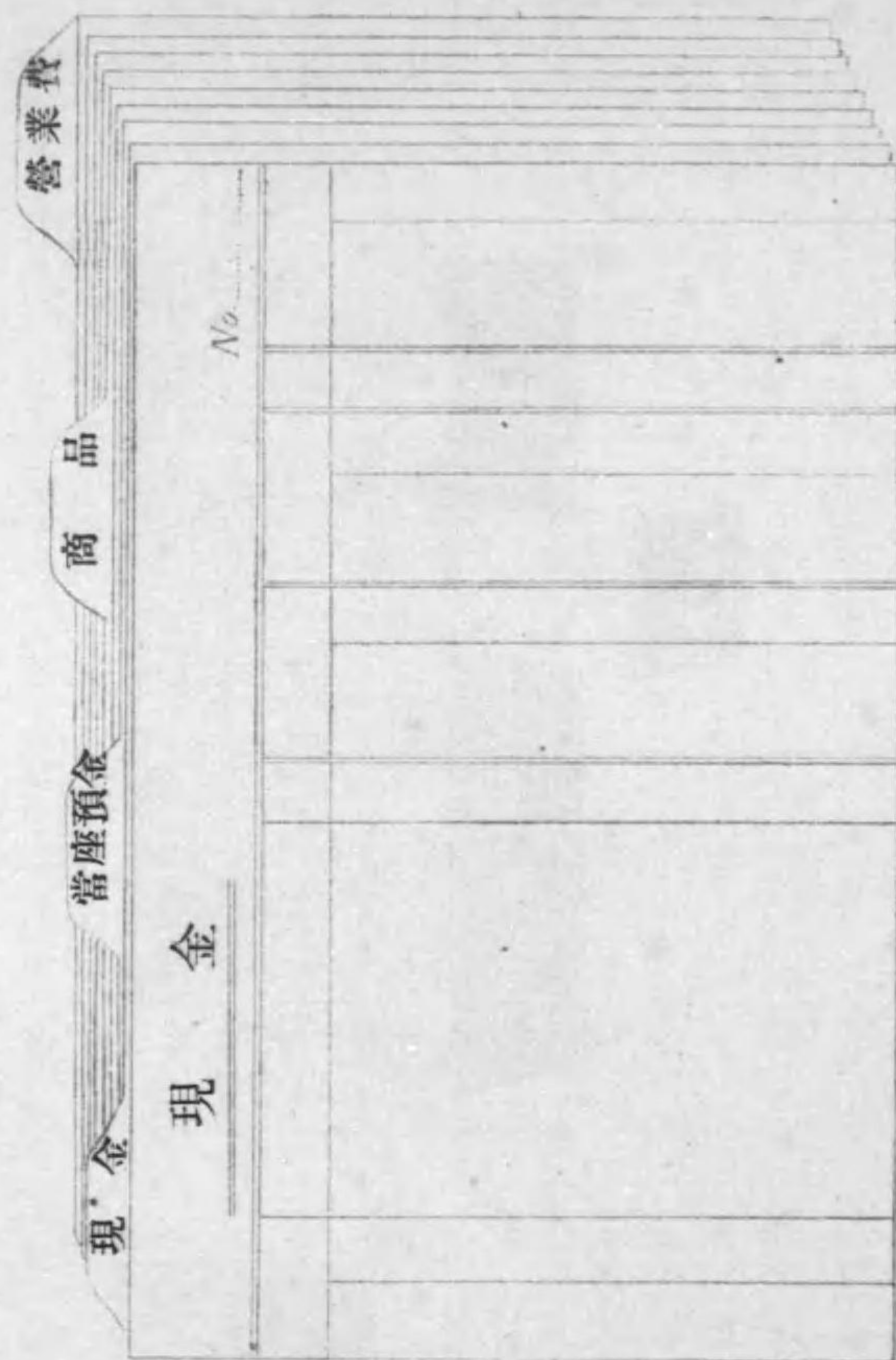
第十一章 カード式、ルーズリーフ式及ビバウチャー式

第一節 カード式トハ何ゾ

カード式簿記トハ綴合セタル帳簿ニ代フルニ、各々分離シタル多數ノ紙札(Card)ヲ以テ會計ノ記録計算ヲ爲スモノニシテ、簿記ノ原理記録計算ノ方法ニ至テハ綴合帳簿ノ場合ニ於ケルト彼是相異ルコト無ク、唯紙札ニ對スル特別ノ整理法ヲ要スルニ外ナラザルナリ。

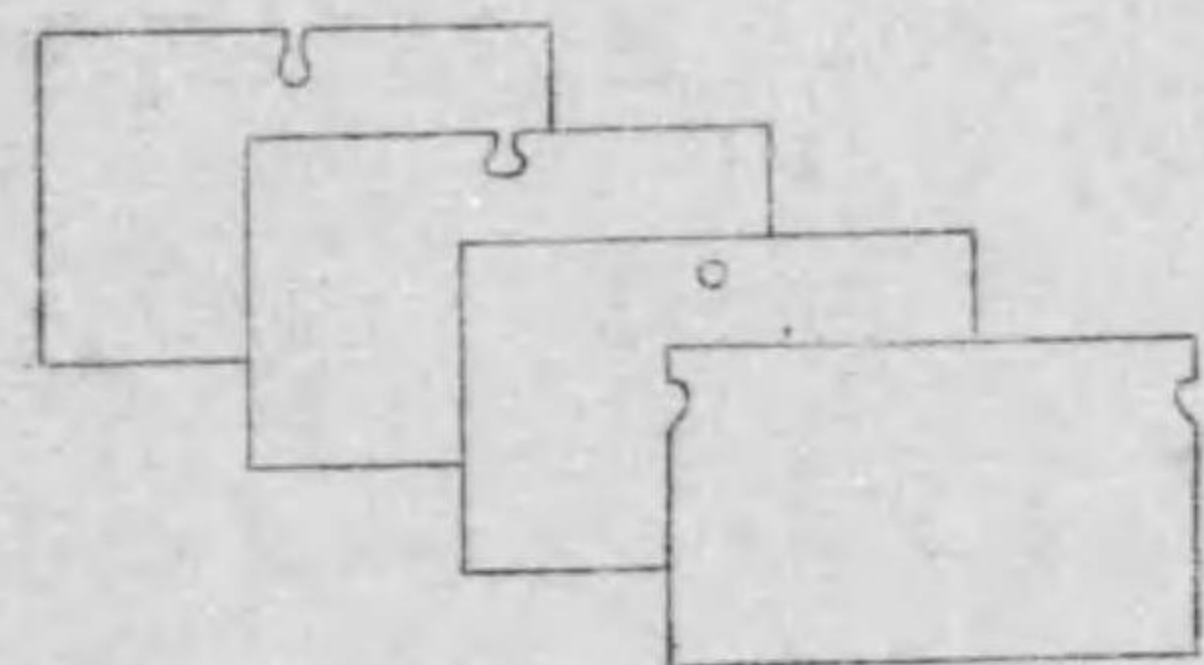
一、カードノ種類 記入セラルベキ事項ノ如何ニ依リ帳簿ノ大小、形状等ニ差異アルガ如ク、紙札モ亦其使途ニ從ヒ夫々適當ノ大サ、形状、紙質ノモノヲ選ブベシト雖モ、通例多ク使用セラルルモノハ横四寸二三分縦三寸若クハ横三寸縦四寸二三分位ニシテ、紙質稍々厚ク堅實ナル洋紙製ナリトス、而シテ紙札ノ表裏兩面ニハ適當ナル罫線ヲ施シテ記入欄ヲ別ツコト普通帳簿ニ於ケルガ如クシ、又赤、青、白等各色ノ紙札ヲ作製シテ紙札ノ種別ヲ明ニスルコトアリ。





紙札ヲ容ルベキ抽斗ハ其底部ニ縦ニ一本ノ金屬製ノ細キ棒ヲ設ケ、紙札ノ下部ニ在ル孔ヲ此棒ニ挟ミテ容易ニ之ヲ前後ニ移動セシムルニ便シ、又紙札ノ散亂ヲ防ガシム。

三、カードノ見出シ 紙札ヲ容レタル抽斗ニハ其抽斗



ノ表面ニ見出シヲ附シテ、如何ナル部類ノ紙札ヲ入レアルヤヲ明ニスルト共ニ、又抽斗内ノ紙札ニモ夫々見出シヲ附シテ、各種事項ノ搜索及ビ記入計算ニ

ニ保存シ、手許ニハ現在必要ノカードノミヲ留置ケバ可ナルヲ以テ、綴合帳簿ノ如ク重量重ク容積大ナルモノヲ日常取扱フノ不便ヲ免レ得ベク、又一冊ノ帳簿ハ一人ナラデハ、同時ニ記帳シ得ザルガ如キ不便ナケレバ、事務ノ繁閑ニ應ジ、甲乙相扶クルノ利益尠カラズ、且ツ集合離散意ノ如クナルガ故ニ隨時其配列、分類ヲ適宜ナラシメ、從テ勘定口座ノ數、多大ナルカ又ハ口座ノ異動頻繁ナル場合ニハ極メテ便利多シトス。

然レドモ便利ノ在ル所、不便又之ニ伴ハザルヲ得ズ、カードノ分散離合自由ナルガ故ニ、其取扱及ビ整備ニ於テ特ニ慎重ノ注意ト装置トヲ施スニ非レバ、或ハ散逸混亂ノ弊ニ陥リ易ク、從テ計算以外ノ事務一切モ、亦秩序ノ整然タルモノニ非ル限リハ、最モ有功ニカード式ノ利益ヲ收ム可ラズ、從テ大規模ノ會計ニ對シテ、ハ頗ル適當ナルベキモ、小規模ノ會計ニ於テハ、普通帳簿ノ簡單ナルニ比シ、特別装置ノ容器ヲ備フル如キ或ハ不便ナルベシ。

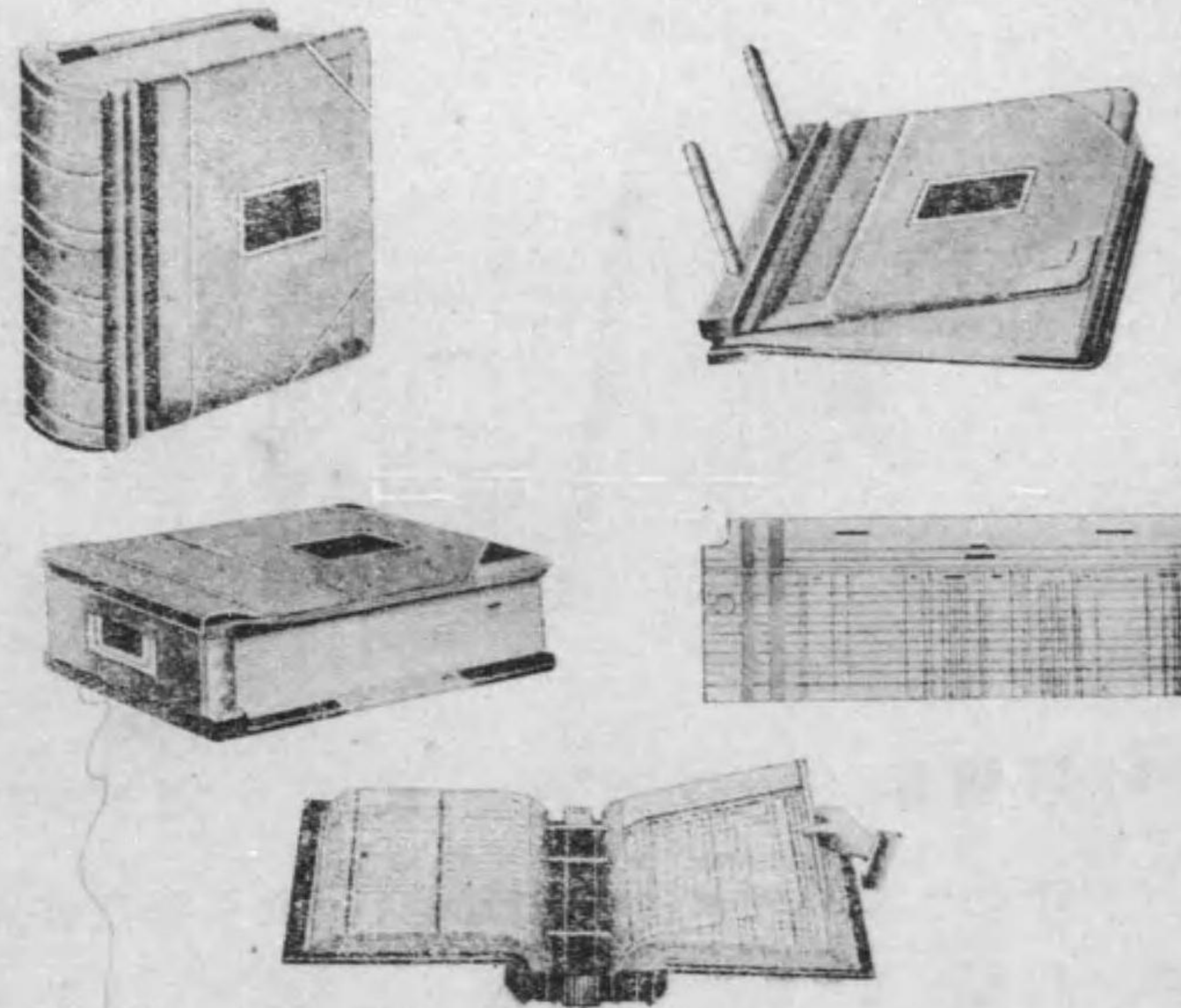
要スルニカード式應用ノ利害便否ハ、事務ノ整理法如何ニ依テ之ヲ決スベク、カードノ取扱及ビ、其監督ノ完全ナラザル以上ハ、到底其利益ヲ收ムルコト能ハザルベシ。

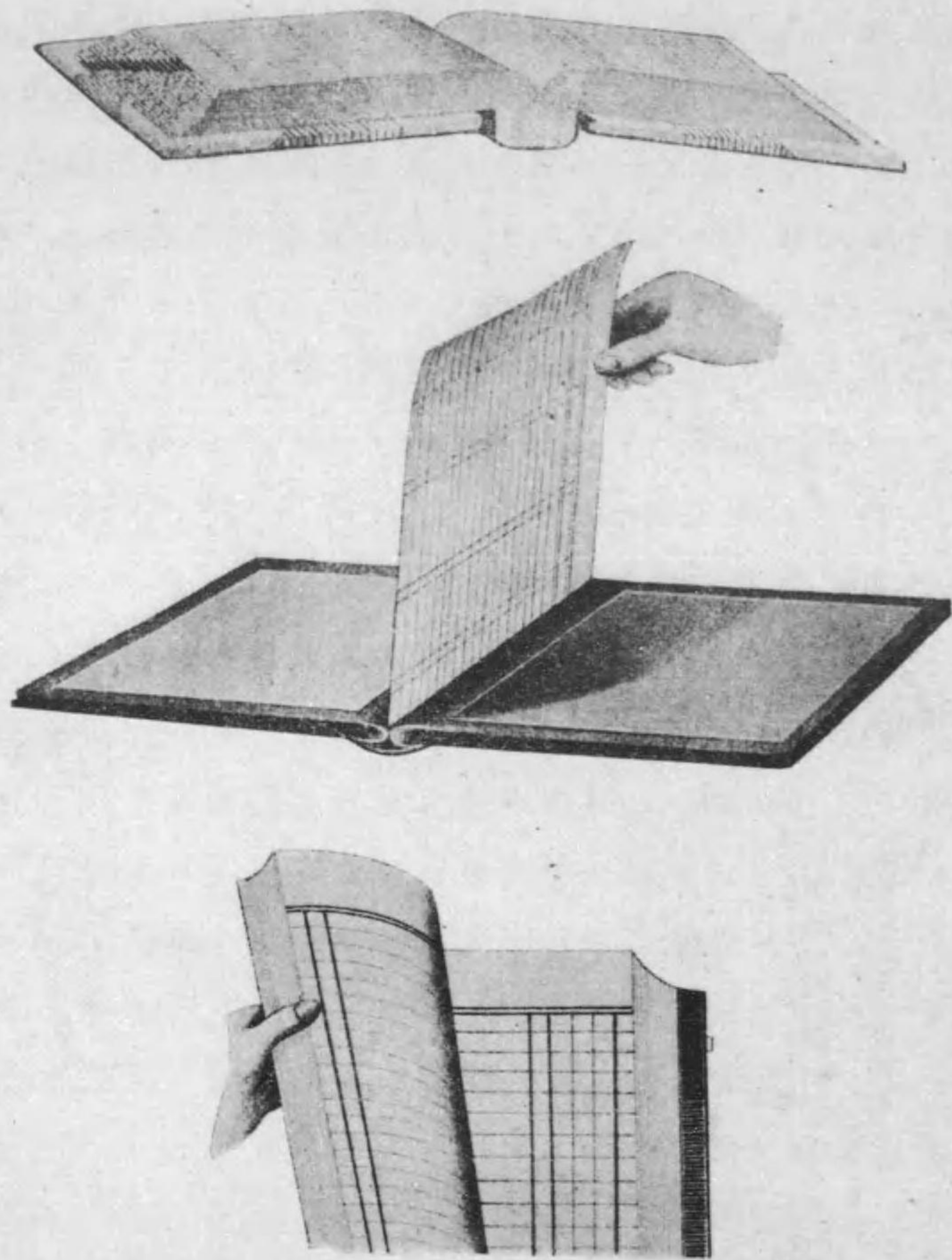
第三節 ルーズ、リーフ式トハ何ゾ

ルーズ、リーフ式(Loose Leaf System)帳簿トハ、カード式ノ一種ニシテ帳簿ノ用紙ガ自由ニ取外ヅシ、又ハ挿込ムコ

トヲ得ルヨウ、特別ナル装釘ニ依リ、綴合セラレタル帳簿ニシテ、從テ現在必要ノ事項ニ關スル、記録ノミヲ帳簿ニ留メ、既ニ記入済又ハ不用トナリタル、紙片ハ之ヲ取外ヅシテ他ニ移シ得ルコト、カード式ト同様ニテルーズ、リーフ式ノ紙片ハ即チカード式ノカードニシテ、又各紙片ニ見出シヲ施スノ方法等、敢テ彼是相異ルコトナシ、而シテカード式ハ容器ノ装置複雑ナルノミナラズ、散逸ノ虞ナキニ非ズト雖モ、ルーズ、リーフ式ハ帳簿ナレバ其等ノ不便モナク從來ノ綴合帳簿ト、カードノ便益ヲ兼ネタルモノト謂フベキナリ。

次ニルーズ、リーフ式帳簿ノ雛形ヲ示サン。





第四節 バウチャー式トハ何ゾ

バウチャー式(Voucher System)帳簿トハ、取引證憑書或ハ其等ノ複寫シタル紙片ヨリ、作成シタル帳簿ナリ、是レ記

帳ノ手數ト煩勞トヲ省キ得ル會計整理法ニシテ、例ヘバ仕入先ヨリ送り越セシ、送狀ヲ順序ニ從ヒテ是ヲ綴リ合シテ仕入帳トナシ、又ハ賣上ニ當リ、先方ニ送付シタル送狀ヲ炭素紙其他複寫機ニ依リ、複寫シタルヲ順序能ク綴リ込ミテ賣上帳トナスガ如キ方法ナリ、故ニバウチャー式ヲ或ハ複寫式トモ稱ス。

第十二章 財産ノ評價法

財産ノ評價即チ棚卸トハ既ニ説明シタル如ク、決算ノ際現在財産ノ價格ヲ時價ニ見積ルコトヲ云フ故ニ評價ノ方法如何ハ損益ノ結果ニ重大ナル關係ヲ及スコト勿論ナリトス次ニ一例ヲ掲ゲテ其關係ノ一斑ヲ示スベシ。

(借方)		(貸方)	
現金	350.―	借入金	2,000.―
銀行預金	2,400.―	資本金	
商品	1,890.―	最初元入高	4,000.―
家屋	1,500.―	当期純益	<u>740.―</u>
公債證書	<u>600.―</u>		<u>4,740.―</u>
	<u>6,740.―</u>		<u>6,740.―</u>

此貸借對照表ニ依レバ、¥740ノ純益ヲ生ジタルコトヲ示スモ、今資産ニ屬スル商品、家屋及ビ公債ノ評價ヲ少シク高ムルトキハ、其結果純益ノ高ハ之ニ伴ヒ増加スルコト次ノ如シ。

(借方)		(貸方)	
現金	350.―	借入金	2,000.―
銀行預金	2,400.―	資本金	
商品	1,990.―	最初元入高	4,000.―
家屋	1,600.―	当期純益	<u>960.―</u>
公債證書	<u>620.―</u>		<u>4,960.―</u>
	<u>6,960.―</u>		<u>6,960.―</u>

財産ノ評價ハ、決算當時ノ時價ニ據ルヲ原則トスレドモ、公債株券ノ如キ大凡市價ノ定マレルモノスラ、決算當時ニ於テ突飛ノ價格ヲ示シ、以テ直ニ財産評價ノ標準ト爲スコト能ハザル場合アリ、況ンヤ什器、地所、家屋ノ如キ一定ノ市價ヲ知ルコト困難ナルモノ、賣殘商品ノ如ク破損毀傷ノ程度ヲ價格ニ見積ルコト容易ナラザルモノニ在リテハ、素ヨリ確ナル時價ヲ算出スルコト能ハズ、且ツ決算ノ結果成ルベク多額ノ利益ヲ見ント欲スルハ、人情ノ常ナレバ、或ル場合ニハ強テ評價額ヲ引上ゲ、一時ノ好成绩ヲ裝フガ如キコト無キニ非ズト雖モ、斯クノ如キハ遂ニ營業ノ基礎ヲ危フスルニ至ルモノナレバ、評價ノ方法ニ就テハ特ニ注意ヲ要スベク、今次ニ最モ適當ニシテ最モ安全ナル評價ノ方法ヲ述ベシ。

第一 商品ノ評價法

商品ノ貯藏セラルルモノハ、多少ノ減量、破損、褪色、流行ノ變遷等ニ依リ、其價格ヲ減少スルノ傾向ヲ有スルモノナレバ商品ノ種類ニ依リ、例ヘバ時價ノ七割若クハ八割ヲ以テ現在商品ノ時價ト算定スルヲ、最モ安全ナル方法ナリトス、尙商品ノ市價暴騰シタル爲メ、貯藏商品ノ價格ヲ高メ、從テ多大ノ利益ヲ得ルノ計算トナル場合ニ於テモ其利益ノ全部ヲ直ニ純益トシテ處分スルトキハ、他日商機一轉シ、市價ノ暴落ヲ來シタル際、一時ニ財産ノ價格ヲ減ジ、爲メニ營業ノ基礎ヲ動スニ至ルガ如キコト無キ

ニ非ラズ故ニ、市價暴騰ニ因ル不時ノ利益ノ如キハ、全部若クハ其幾分ヲ割キテ之ヲ積立テ他日暴落ノ時ニ備フルノ方策ニ出ヅルコト最モ必要ナリトス。

第二 家屋、什器ノ評價法

家屋、什器ハ使用スルニ從ヒ、漸次其價格ヲ低落シ遂ニ使用ニ堪ヘザルニ至リテ、殆ンド全ク其價格ヲ有セザルニ至ルモノナレバ、一營業期間ニ於テ其使用ノ爲メニ生ジタル、減價ノ損害ハ之ヲ其營業期ノ損失トシテ、計算スルヲ適當ナリトス、若シ家屋、什器ニシテ全然使用ニ堪ヘザルニ至リタル時ヲ以テ初テ其全價格ヲ損失ト見做シ、計算スルトキハ過グル幾年間ノ損失ヲ一期ニ歸セシムルコトトナリ、營業上ニ激變ヲ與フルコト少カラザルベク又株式會社ノ如キ資本主タル株主ノ常ニ異動スルコト多キ組織ニ在リテハ、斯クノ如キ不條理ナル計算ノ方法ハ、到底株主ノ容ルル所トナラザルベシ。

サレバ家屋、什器ハ先ヅ、其使用ニ堪ヘ得ル年限ヲ見積リ且ツ其年限後ハ家屋什器トシテハ、使用シ得ザルモ他ノ材料若クハ燃料トシテ、尙多少ノ價格ヲ剩スベケレバ、豫メ其殘存價格ヲ假定シテ、次ノ計算ヲ爲スベシ。

$$1,000 \text{ 圓(原價)} - 100 \text{ 圓(殘存價格)} = 900 \text{ 圓}$$

$$900 \text{ 圓} \div 15 \text{ 年(假定シタル使用期限)} = 60 \text{ 圓(一ケ年ノ減損價格)}$$

斯クノ如クシテ、一ケ年間ニ生ズベキ減損價額ヲ算出

シタルトキハ、決算ノ際原價ヨリ其減損價額ダケ、差引キタルモノヲ棚卸表ニ計上スベシ、例ヘバーケ年目ニハ ¥ 940. 二ケ年目ニハ ¥ 880. ト評價スベキナリ。

第三 地所ノ評價法

地所ハ或ル特別ナル原因ニ依リテ、其價格ヲ増減スルコトアルモ、家屋、什器ノ如ク使用ニ依リ、其價格ヲ減ズルモノニ非ザルノミナラズ、地所ノ價格騰貴ニ因ル利益ハ、營業ノ主タル目的ニ非ザルヲ以テ、假令地所ノ價格ニ多少ノ變動アルモ之ヲ買入原價ニ依リテ評價シ、而シテ其騰貴若クハ下落ガ一時的ノモノニ非ズシテ、長ク其價格ヲ維持スベキモノナルコトヲ見定メタル、後初メテ評價格ヲ上下スベキナリ。

第四 公債株券ノ評價法

公債株券ノ如キ常ニ公定相場ノ表示セララルモノハ市價ニ依リ之レガ評價ヲ爲スコト極メテ容易ナリ、然レドモ一般商店ニ於テ、公債株券ノ價格變動ニ因ル損益ハ營業ノ主タル目的ニ非ルコト地所ノ價格變動ニ於ケルト異ルコトナク且ツ公債株券ノ市價ハ地所ニ比シ其動搖騰下甚ダ頻繁ナレバ、之レガ評價ハ時價ニ據ルモ其評價利益ハ一般營業收益ト之ヲ區別シ其全部ヲ直ニ處分スルコト無ク須ラク其一部ヲ積立テ置キ市價下落ノ際ニ於ケル、評價損失ヲ補フニ備フベキナリ。

第五 手形ノ評價法

嚴格ニ言ヘバ手形モ亦評價セザル可ラズ、何トナレバ手形表面ニ記サレタル金額ハ將來ニ於テ受拂スベキ金額ヲ示シ、未ダ満期日ニ達セザルニ先テ、現金ヲ得ントスルトキハ、割引料ヲ差引キタル殘額ヲ受クルナルベシ、故ニ決算期ニ於ケル受取手形支拂手形ノ満期日ニ達セザルモノノ、價格ハ満期日迄ノ長短ニ依リ、夫々額面以下ナラザル可ラズ、今大正四年二月廿八日ヲ以テ期限トセル、金壹千圓ノ手形アリ、決算日ナル大正三年十二月卅一日ニ於ケル、其手形ノ時價ヲ見出サントスルトキハ

$$1000 - \left(\frac{1000}{100} \times \text{日歩} \times 59^{\text{日}} \right) = \text{手形ノ時價}$$

ノ如キ計算ヲ爲スベシ。

第六 掛取引ノ評價法

手形ノ評價ヲ要ストセバ掛取引ノ如キ或ル習慣上ノ掛代金支拂日ナラデハ、受拂ヲ爲サザルモノモ亦評價ヲ爲サザル可ラズ、況ンヤ掛取引ニハ所謂掛倒レノ危険アリテ決算日ニ於ケル、掛金ノ金額ガ直ニ完全ナル財産ナリトハ云フ可ラザルヲ以テ、掛取引ノ評價ハ理論上ヨリ云フモ、營業ノ安全ヲ期スル上ヨリ云フモ共ニ必要ナルベシ。

手形ノ如ク確定セル、支拂日ヲ有スルコトナキ掛取引ニ對シ、其評價ヲ爲スト云ハバ事頗ル難キガ如シト雖モ、例ヘバ卸賣商ガ二ヶ月後拂ナレバ二分引、一ヶ月後拂ナレバ三分引、現金ナレバ五分引ナド、支拂期日ノ長短ニ依

リ割引歩合ヲ高下スルガ如ク、掛期間ノ長短ニ據リテ評價スレバ、決シテ行ハレザルニモ非ズ、或ハ掛取引ノ總額ニ對シ、二割引シタルモノヲ以テ、掛ノ時價トスルガ如キ、方法ヲ取ルモ亦簡便ナルベシ。

第十三章 試算表ノ誤謬ヲ發見スル方法

元帳各勘定口座ニ於ケル、貸借雙方ノ合計金額若クハ貸借ノ殘高ヲ集メテ、試算表ヲ作成スルニ當リテハ、計算及ビ轉記ヲ爲スニ最モ慎重ノ注意ヲ拂ヒ、秋毫モ誤算誤記ナカランコトヲ期セザル可ラズト雖モ、繁劇ナル業務ノ裡ニ處シテ、敏速ニ記帳計算ヲ爲スヲ要スルモノハ、時ニ何等カノ誤謬ヲ生ジ、貸借合計ノ符合ヲ見ズ、而シテ其誤謬ガ果シテ那邊ニ在ルヤヲ探リ、之ヲ訂正セント欲スルモ、容易ニ其由テ生ジタル原因ヲ發見スルコト能ハズ、爲メニ尠カラザル混雜ヲ招キ、事務ノ進行ヲ妨グルコト無キニ非ズ、故ニ其誤謬ヲ發見スルノ途ヲ講究スルハ、甚ダ必要ノコトト謂フベキナリ。

今此誤謬ノ因テ生ズル最モ普通ノ場合ヲ尋スルニ概ネ次ノ如クナルベシ。

- 一、借方ニ記入スベキ金額ヲ貸方ニ記入シ、或ハ貸方ニ記入スベキ、金額ヲ借方ニ記入シタルコト。
- 二、金額ノ數字ヲ誤記シ、或ハ數字ノ位取ヲ誤リタルコト。
- 三、元帳記入ノ材料ヲ供給スベキ、諸種ノ帳簿例ヘバ仕譯帳、金錢出納帳等ニ違算アリタルコト。
- 四、元帳各勘定金額加算ノ際誤リアリタルコト。

五、元帳ヨリ試算表ニ轉記ノ際、誤記ヲ爲シ又ハ試算表金額ノ加算ヲ誤リタルコト。

而シテ日常帳簿ノ取扱ニ任ジ、試算表ノ作成ヲ爲スモノハ、表中ニ記サレタル金額ヲ通觀シテ、各科目ノ性質若クハ自家財政ノ程度ニ適應セザル金額ヲ認メ、誤謬ヲ發見スルノ熟練知識ヲ得ルニ至ルベシト雖モ、之レ例ヘバ常ニ圓以下ノ數字ヲ示サザル、科目ニ其等ノ數字ヲ示シ、通例千位ニ上ラザル科目ノ金額ガ千位ヲ超エタルガ如キ場合ニシテ、微細ノ誤謬ニ至テハ、容易ニ之ヲ認識スルコト能ハズ、必ズヤ數學上ニ於ケル數ノ原則ニ依リ計算的ニ其誤謬ヲ探ラザル可ラズ、而シテ之レガ計算ノ基點ハ一ニ之ヲ試算表ニ現ハレタル、借方合計ト貸方合計トノ差額ニ求メザルヲ得ザルナリ。

一度誤謬ノ生ズルヤ其誤謬ガ因トナリテ、各所ニ誤謬ヲ續出セシムルコトアリ、或ハ異リタル性質ノ誤謬ヲ諸所ニ作ルガ如キコトアリ、故ニ先ヅ簡易ナル發見法ヨリ始メテ次第ニ種々ノ誤謬發見法ヲ試ミザル可ラズ。

第一 借方ト貸方トノ入レ違ヒ

借方ニ記入スベキ金額ヲ貸方ニ入レ、又ハ貸方ニ入ルベキ金額ヲ借方ニ記シタルトキハ、眞實ノ金額ノ二倍ガ貸借合計間ノ差額トナリテ現ハルベシ、故ニ其差額ニシテ二除シ得ベキ數ナルトキハ、差額ノ半數ニ等シキ金額ヲ求メテ、誤謬記入ナラザリシヤヲ檢スベシ。

第二 加算ノ誤謬

加算ノ際誤謬ヲ生ゼザリシヤヲ、最モ簡短ニ検査セント欲セバ各列ノ數字ノ和ヲ九除シタル殘ヲ集メテ更ニ九除シタル殘ガ合計ノ列數字ノ和ヲ九除シタル殘ニ相當スルヤ否ヤヲ見ルベシ、例ヘバ

25,687
46,523
5,694
47,627
8,655
4,318

138,504

ノ加算ガ正確ナルヤ否ヤヲ知ラント欲スルトキハ。

一列	2+5+6+8+7=28	28ヲ九除シタル殘=1
二列	4+6+5+2+3=20	20 " " " =2
三列	5+6+9+4 =24	24 " " " =6
四列	4+7+6+2+7=26	26 " " " =8
五列	8+6+5+5 =24	24 " " " =6
六列	4+3+1+8 =16	16 " " " =7

殘ノ和 1+2+6+8+6+7=30 30ヲ九除シタル殘 3
 合計ノ和 1+3+8+5+4 =21 21ヲ九除シタル殘 3

雙方ノ殘三トナリ、即チ此計算ニハ誤ナカリシヲ知ル、而シテ各列ノ數字ノ和ヲ九除シテ其殘ヲ見出スガ如キハ、加ヘ行ク際、九ト纏ル毎ニ之ヲ棄テ去レバ足ルヲ以テ

心算ニ依リ、直ニ其結果ヲ算定スルコトヲ得ベキナリ。

第三 二個ノ數字ノ順序ヲ顛倒シテ記シタルトキ

例ヘバ「四八二」ヲ「四二八」ト誤記シタルトキハ、其誤差ハ必ズ九ヲ以テ除スルコトヲ得ベシ、而シテ誤謬金額ノ末ニ零ヲ存スルトキハ、幾個ノ零ニテモ盡ク之ヲ省キ、先ヅ九ヲ以テ除シ一位ノ商ヲ得ルトキハ、其商ハ誤テ顛倒記入シタル兩數字ノ差ヲ示シ、且ツ其兩數字ハ互ニ相隣レルモノナルコトヲ知ルベク、又同様ニ九十九ヲ以テ誤差ヲ除シ、一位ノ商ヲ得ルトキハ、其商ハ兩數字ノ差ヲ示スモ此場合ニ於テ顛倒シタル兩數字ハ相隣接セズシテ兩數字間ニ他ノ一數字ヲ存スルヲ知ルベク、若シ又九百九十九ヲ以テ誤差ヲ除シ、一位ノ商ヲ得ルトキハ、誤リタル兩數字ハ二個ノ他ノ數字ヲ隔テテ存スルヲ知ルベク、斯クシテ法ニ九ヲ増スニ從ヒ兩數字ノ隔リハ一位ヅツ増スモノト知ルベシ。

故ニ前例ノ數字ニ就テ示セバ

482ヲ誤テ428トシタルトキハ誤差=54
 54÷9=6而シテ6ハ誤リタル兩數字ノ差ヲ示シ且ツ一位ノ9ヲ以テ得タル一位ノ商ナル故兩數字ハ相隣リテ存スルヲ知ル。

又 482ヲ誤テ284トシタルトキハ誤差=198
 198÷99=2而シテ2ハ誤リタル兩數字ノ差ヲ示スト同時ニ二位ノ9ヲ以テ除シタル一位ノ商ナレバ兩數字ハ其間ニ他

ノ一數字即チ8ヲ隔テテ存スルヲ知ル。

第四 金額ノ位取ヲ誤テ記シタルトキ

例ヘハ「二五四〇」ヲ「二五四」ト誤記シ若クハ「二五、四」ト誤記シタルトキハ、誤謬金額ノ伏在ヲ指示スベキ誤差ヲ九、九九九九等除シ盡シ得ベキ最大ノ九ヲ以テ除シ、二位以上ノ商ヲ得ルトキハ、其商ハ誤謬金額ノ數字ヲ其儘ニ表示スルモノナリ、而シテ一位ノ九ノミヲ以テ除シ盡シ得ベキトキハ一位ダケ位取リヲ誤リタルヲ知リ、二位ノ九即チ九十九ヲ以テ除シ得ルトキハ、二位ダケ位取リヲ誤リ、三位ノ九ヲ以テ除シ盡シ得ルトキハ、三位ダケ位取リヲ誤リタルモノナルベキヲ以テ、直ニ此數字ヲ元帳ニ照合シテ訂正スルコトヲ得ベキナリ。

前例ノ數字ニ就テ示セバ

2540ヲ誤テ254ト記シタルトキハ誤差=2286

2286÷9=254 而シテ2286ハ99又ハ999等ヲ以テ除シ盡ス可ラザルモ9ヲ以テ除シ二位以上ノ商ヲ得ルガ故ニ2286ナル誤差ハ254ナル數字ノ位取ヲ誤リタルニ依ル誤差ナルヲ知ル。

又 2540ヲ誤テ25,4ト記シタルトキハ誤差=25146

25146ハ之ヲ九除シ得ルト同時ニ99ニテ除シ盡シテ二位以上ノ商254ヲ得ルヲ以テ此254コソ位取ヲ誤リタル數ナルヲ知ル

第五 二個ノ數字ヲ顛倒シ且ツ位取ヲ誤リタルトキ

以上ニ記シタル第三第四ノ場合ニ於テ九、九九九九等ヲ以テ除シ一位ノ商ヲ得ルトキハ、數字ノ顛倒セルコトヲ示シ、二位以上ノ商ヲ得ルトキハ、位取ヲ誤リタルモノナルコトヲ説明シタルガ更ニ。

二個ノ數字ヲ顛倒スルト同時ニ、又其位取ヲモ誤リタルトキ、例ヘバ「三六」ヲ「六三」ト誤記シ「二七」ヲ「〇、七二」ト誤記シタルガ如キ場合ハ、其誤差ヲ九、九九九九等ヲ以テ除シ商トシテ一個ノ數ヲ得ルニ至ラシメ、此除法ヲ行ヒ除シ盡シ得ザリシ殘餘ノ數ヲ又九、九九九九等ヲ以テ除スベシ、然ルトキハ此二回ノ除法中第一回ノ除法ノ商ハ誤謬金額ノ最高若クハ最低ノ數字ヲ示シ、第二回ノ除法ノ商ハ其他ノ數字ヲ示スベシ、例ヘバ

36ヲ位取及順序トモ誤リ 6.3ト誤記シタルトキハ $36 - 6.3 = 29.7$ ナル誤差ヲ生ズルニ至ル

而シテ $297 \div 9 = 33$ ニシテ二位以上ノ商ナル故位取ヲ顛倒シタルヲ知リ、同時ニ $297 \div 99 = 3$ ニシテ一位ノ商ナル故顛倒シタル兩數字ノ差ヲ知ルベシ

又 27ヲ0.72ト誤記シタルトキハ $27 - 0.72 = 26.28$ ナル誤差ヲ生ズ $2628 \div 9 = 292$ ニシテ二位以上ノ商ナル故位取ヲ誤リタルヲ知リ

$2628 \div 999 = 2$ ト630ナル殘ヲ生ズ

630ノ0ヲ省キ $63 \div 9 = 7$ ニシテ第一回ノ除法ノ一位ノ商ナル2ハ最高又ハ最低ニアル數字ヲ示シ、第二回ノ除法ヲ試

ミテ得タル商7ハ他ノ位置ニアル數ヲ示スモノナルコトヲ知ル。

以上述ブル所ノ第三第四第五ノ如キ種類ノ誤記ノ結果ハ必ズ九ヲ以テ除シ得ベキ誤差ヲ示スベキヲ以テ、先ヅ誤差ガ九ヲ以テ除シ得ベキヤ否ヤヲ考察シ(例ヘバ誤差三七六ニナル數ヲ生ジ、此數ガ九除シ得ベキヤ否ヤヲ知ルニハ、此金額ヨリ成ル各數字ノ和即チ $3+7+6+2$ ガ九除シ得ルヤ否ヤヲ檢スベシ)若シ九ヲ以テ除シ得ベカラザルモノナルトキハ、加算ノ誤若クハ諸種ノ誤謬ノ綜合等他ノ性質ノ誤謬ナルヲ知リ得ルヲ以テ元帳ニ於ケル各勘定ノ金額ト補助帳トノ照合ヲ爲ス等他ノ方法ニ依リテ一々其誤謬ヲ正サザル可ラザルナリ。

大正四年二月廿二日印刷

大正四年二月廿五日發行

著	所
作	
權	有

(定價金八拾錢)

著作者 泉屋清次郎

著作者 早藤石太郎

發行者 辻本卯藏

東京市神田區北神保町十一番地

印刷者 佐藤與三郎

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

發行所

東京市神田區北神保町十一番地

弘道館

振替口座東京一八五番 電話本局三四三二

29.2.11

320
173

終